

吉備国際大学



第2期

中期目標・中期計画書

(令和元年度～令和4年度)

キラリと光る吉備国際大学を目指して

吉備国際大学第2期中期目標・中期計画

(平成31年4月1日～令和5年3月31日)

学長 眞山 滋 志

吉備国際大学は、開学以来、「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念のもと、地域社会の中心となる大学として「豊かな人間性と確かな実践力を育みグローバルに活躍できるスペシャリストの養成」を目指した教育・研究の取り組みによって、多くの人材を社会に輩出して参りました。

また、平成28年度から平成30年度までの3年間は、“キラリと光る吉備国際大学”の構築を目指して、「第1期中期目標・中期計画」を策定し、大学、研究科、学部、学科として様々な改革に取り組んで参りました。その中で、やむを得ず募集停止となった学科、研究科もありましたが、一方で、新たな学科、研究科の開設もあり、平成30年度、平成31年度の2年間は新入学生を増加させることができいております。

このたび、第1期の総括を踏まえ、“キラリと光る吉備国際大学”として一層の前進を期して、「第2期中期目標・中期計画」を策定いたしました。

第1期策定の際に確認いたしましたとおり、“キラリと光る大学”とは、何よりもそこに学ぶ“一人ひとりの学生”が光り輝くことであります。したがって、今回も大学全体のビジョンを「吉備から世界へ！未来を豊かにするあなたの実践力を育む。」といたしました。

「第2期中期目標・中期計画」の実施にあたり、全教職員が意識を共有し、新たな決意に立って力を合わせ、世界へ飛翔する“キラリと光る吉備国際大学”を目指して全力で取り組んで参ります。

目 次

まえがき

ビジョン一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

吉備国際大学（大学全体）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

<学部・学科>

社会科学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

経営社会学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

スポーツ社会学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

保健医療福祉学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

看護学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

理学療法学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

作業療法学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

社会福祉学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

心理学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

心理学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

子ども発達教育学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

農学部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

地域創成農学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

醸造学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

外国語学部 外国学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

アニメーション文化学部 アニメーション文化学科・・・・・・・・ 35

通信教育部 心理学部 子ども発達教育学科・・・・・・・・・・・・ 37

<大学院>

社会学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

保健科学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

心理学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

地域創成農学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

（通信制）社会福祉学研究科 修士課程・・・・・・・・・・・・・・ 45

（通信制）連合国際協力研究科 修士課程・・・・・・・・・・・・・・ 46

（通信制）心理学研究科 博士（後期）課程・・・・・・・・・・・・ 47

（通信制）保健科学研究科 理学療法専攻 修士課程・・・・・・・・ 48

（通信制）保健科学研究科 作業療法専攻 修士課程・・・・・・・・ 50

（通信制）知的財産学研究科 修士課程・・・・・・・・・・・・・・ 52

吉備国際大学	吉備から世界へ！ 未来を豊かにするあなたの実践力を育む
	<p><基本目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建学の理念 :「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」 ・教育目標 :「豊かな人間性と確かな実践力を育みグローバルに活躍できるスペシャリストの養成」 ・指導方針 :「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎を重視し創意工夫(吉備アプローチ)を凝らした指導」 <p>豊かな人間性と確かな実践力を育み、グローバルに活躍できるスペシャリストを養成します。</p>

学部・学科

社会科学部	<p>現代社会の課題に挑む！</p> <p>社会現象のメカニズム、人々の生活課題、様々な社会問題の探求を通して、現代社会の仕組みを理解し、社会に貢献できる人材を養成します。</p>
経営社会学科	<p>時代を生き抜く経営学と社会学を学ぶ！</p> <p>経営・社会・環境について学び、協調性と創造性を磨き、グローバル化への対応能力を培い、持続可能な社会を担う人材を養成します。</p>
スポーツ社会学科	<p>スポーツを通じて人を支え、社会をつくる人材を育てる</p> <p>スポーツおよび健康運動の指導、組織化、運営に関する知識と技術を身につけ、スポーツおよび健康関連分野でリーダーシップを発揮できる人材を養成します。</p>
保健医療福祉学部	<p>保健医療福祉のスペシャリスト養成！</p> <p>次世代を担う質の高い保健医療福祉の専門家を養成します。</p>
看護学科	<p>あたたかな心と看護の確かな知識と技術を育む！</p> <p>あたたかな「看護の心」と確かな知識・技術を身につけた看護専門職を養成し、地域の保健医療の発展に貢献します。</p>
理学療法学科	<p>私立大学の伝統ある理学療法士養成課程！</p> <p>培ってきた「教育の質」と「社会的信頼」、学生満足度に資する学修環境を追求し、選んで頂けるオンリーワンの理学療法士養成課程を目指す。</p>
作業療法学科	<p>作業療法士としての輝かしい未来を拓く！</p> <p>作業療法の基礎から最先端の理論と実践を教授し、作業療法士としての多様性のある輝かしい未来を拓きます。</p>
社会福祉学科	<p>福祉の学びを自分と他者のより良い人生を築く力に！</p> <p>福祉教育を通じた一人ひとりの個性を輝かせる人間力の養成と寄り添う力・生きる力の養成を目指します。</p>
心理学部	<p>「こころ」を科学し、心理学マインドを身につける！</p> <p>「こころ」についての理解を深め、よりよい人間関係を築く力を養成します。</p>
心理学科	<p>脳を知り、心を知り、心理学を楽しむ！</p> <p>心理学の基礎から臨床まで、オーソドックスな教育をベースに、一人ひとりの長所を伸ばし、将来の可能性を広げます。</p>
子ども発達教育学科	<p>心を学び、教育課題に対応できる実践力のある教師、保育士を養成！</p> <p>教育課題の本質を見極めるための基盤となる心理の知識を身に付けるとともに実践的な講義を行い、教育課題に対応できる小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を養成します。</p>
アニメーション文化学部 アニメーション文化学科	<p>地域で、アニメの、地域で、アニメの夢を実現しよう！</p> <p>アニメーションの制作・文化・プロデュースをトータルに学び、映像文化の新たな担い手を養成します。</p>

農学部	農を基に食と地域の未来を拓く ～新たな挑戦～ 淡路島から始まる、あなたと地域の未来。ここにしかない農・食の学びで地域社会のリーダーを養成します。
地域創成農学科	農を基に食と地域の未来を拓く ～新たな挑戦～ 淡路島から始まる、あなたと地域の未来。ここにしかない農・食の学びで地域創成のリーダーを養成します。
醸造学科	農をもとに醸造分野を拓く 新たな醸造関連食品を創出できる人材の育成、日本及び国際社会、特に地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。
外国語学部 外国学科	日本の文化・歴史に関する知識と英語力を身につけ、世界へ飛翔しよう！ ジャパNSTAディ・英語コミュニケーション力・海外留学をベースに一人ひとりの力を開発し、グローバル社会で活躍できる人材を養成します。
通信教育部 心理学部 子ども発達教育学科	自己の可能性を信じ、チャレンジするあなたへ！「仕事・家庭」と「学び」を両立させ、子育てのスペシャリストをめざす！ 心理学をベースとした保育・教育・児童家庭福祉の学びで、子どもの心理・子育ての心理に精通した子育てのスペシャリスト(保育者・教育者)を養成します。

大学院

社会学研究科	現代社会の課題に知的チャレンジで立ち向かう！ 社会の変革をとらえ、時代が要請する課題に対して知的チャレンジを続けてグローバル社会で活躍する人材を養成する。
保健科学研究科	保健科学の専門領域の疑問を研究で解く！ 優れた研究環境と細やかな研究指導体制によって、保健科学領域をリードする教育研究者と専門職を養成します。
心理学研究科 修士課程	認識の探求と思いやりー時代を超えた究極の理想に迫る！ 客観的かつ論理的な心理学的方法論に基づいて研究と支援のできる心理専門家を養成します。
地域創成農学研究科 博士(前期)課程・ 博士(後期)課程	研究力の向上を通じて未来を拓く ～新たな挑戦～ 淡路島に立地する、本研究科でしか出来ない地域課題の研究活動を通じた地方創生への挑戦。
(通信制) 社会福祉学研究科 修士課程	福祉の学びで希望社会への道を拓く！ 福祉関連領域での現場経験を活かして理論、研究法、専門的知見を学び、経験知と科学的論拠によって課題解決に取り組む、福祉・ケアのリーダーを養成します。
(通信制) 連合国際協力研究科 修士課程	国際協力の探求ー21世紀国際社会の多様な課題解決のために！ 一人ひとりの問題意識を大切に教育研究を通じて、国際社会の近未来を担う高度国際協力人材を養成します。
(通信制) 保健科学研究科 理学療法専攻 修士課程	リサーチマインド&メソッド 臨床における疑問を研究で解く！ 臨床実践や業務と両立できる全国唯一の通信制大学院として、高度な臨床研究能力を持つ理学療法士を養成します。
(通信制) 保健科学研究科 作業療法専攻 修士課程	理論に基づいた作業療法実践！ 臨床実践や業務と両立できる通信制大学院教育を提供し、指導的役割を担う高度専門職としての作業療法士を養成します。
(通信制) 知的財産学研究科 修士課程	日本初！通信制による知的財産学の大学院 知的創造サイクルに精通した知的財産専門人材、紛争処理や国際取引を把握できる能力を有する人材を養成します。
(通信制) 心理学研究科 博士(後期)課程	客観的かつ科学的な方法論に基づき、意識・行動を対象とした研究活動を自立的に行うことのできる能力と深い学識をもった専門家を養成します。 客観的かつ科学的な方法論に基づき、意識・行動を対象とした研究活動を自立的に行うことのできる能力と深い学識をもった専門家を養成します。

<p>ビジョン (キャッチフレーズ)</p>	<p>吉備から世界へ！未来を豊かにするあなたの実践力を育む</p>	
<p>基本目標</p>	<p>建学の理念 教育目標 指導方針 (吉備アプローチ)</p>	<p>「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」</p> <p>「豊かな人間性と確かな実践力を育みグローバルに活躍できるスペシャリストの養成」</p> <p>「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎を重視し創意工夫を凝らした指導」</p> <p>吉備国際大学は、学校法人順正学園の建学の理念「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する。」を基盤に据え、高梁、南あわじ志知、岡山および岡山駅前の4つのキャンパスを持ち、計6学部11学科、通信教育部1学科、通学制5研究科、通信制6研究科および留学生別科を擁する総合大学である。地域社会の中核的存在として、地域創成に資する教育・研究そして社会貢献に努め、さらりと光り信頼される大学を目指す。</p> <p>吉備国際大学の教職員は、建学の理念を踏まえ、教育・研究・地域連携目標の実現を図るため、学生の目線に立った吉備アプローチの指導方針に徹し、一丸となって下記の基本目標の達成に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学部・学科および研究科の3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の絶えざる検証と実行。 2) 学部・学科および研究科の教育力および研究力の向上。 3) 学部・学科および研究科の持てる学術力を発信するブランディング活動の強化。 4) 入学定員の充足および就職率・国家試験合格率100%の達成。 5) チューター制度の機能強化、「吉備アプローチ」指導方針の徹底による退学者ゼロの達成。 6) 研究・教育に資する外部資金(科研、公的資金、受託研究、奨学寄附金等)の獲得増努力。 7) 地(知)の拠点大学として地域の課題研究への取組とボランティア教育の推進。 8) 安全安心な学修環境の保全(ハラスメント防止、防災・健康管理対策、国際交流環境の醸成)。 9) 学友会・体育・文化部会と連携し、学生課外活動、スポーツ・文化サークル活動の積極的支援。 10) 同窓会の国内外の組織における交流促進。 11) 自己点検・自己評価の徹底と改善策の確実な実行。
<p>教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)</p>	<p>中期目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 吉備アプローチの指導方針の徹底による教育力の向上 2) 教育プログラムの強化 3) 退学・除籍者数の大幅減 4) 就職率100%、国家試験合格率100% 5) 国際交流の推進と留学生への日本語教育の徹底 6) 教職センターの機能強化 7) 地域を志向する科目の推進 8) 安全安心な学修環境の保全と充実 9) 学生の課外活動支援 10) 自己点検・自己評価による改革改善の実行 11) 教育力の成果の可視化(学生の満足度向上)

<p>教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。)</p> <p>募集力 (ブランド力)</p>	<p>施策</p>	<p>(R元)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「懇切丁寧で学生一人ひとりに応じた、基礎を重視し創意工夫を凝らした指導」を徹底し、学生の持つ能力を最大限に引き出し引き伸ばす質の高い教員組織を構築する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート実施による授業改善、FD研修会の充実を図り、アクティブラーニングなどの多様な授業方法の導入を推進する。 ・GPAを活用して成績不振学生(GPA1.5未満)を早期に見出し、保護者面談を含む丁寧な指導で学修が継続できるよう重点的に指導する。 2) 全学共通教養科目及び各学科の専門科目について、本学独自の魅力あるカリキュラムへの再編を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通教育科目については令和3年度改正を目指し、中核センター会議及び全学教養教育委員会において検討を進める。 ・専門教育科目は、理学療法学科・作業療法学科は令和2年度、看護学科は令和3年度に法改正に合わせて変更する。その他の学科については教養科目の改正に合わせて変更を検討する。 3) 吉備アプローチによる学生目線に立った懇切丁寧な指導方針により、退学者の減少に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ・3回連続欠席通知による修学状況の早期の把握と懇切丁寧な指導の実施。 ・教授会等への退学者の推移や退学理由などのデータ提供を行う。 ・学科と健康管理センター等との連携、早期の転学科ガイダンス等を行う。 4) 国家試験対策の指導を早期に開始し、一人ひとりに懇切丁寧な指導を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に向けて、学生が自主学習できる環境を各学科に整備する。 ・キャリア教育の充実を図り、キャリアサポートセンターと学科等が連携して就職支援を徹底する。 5) 留学生の受入体制の充実を目指す。アジア村を活用した相談コーナーや日本人学生との交流事業の実施、日本語教育の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・「国際交流DAY」を実施し、留学生と日本人学生、地域住民との交流を図る。 ・留学生に対する日本語教育として、日本語能力試験N1、N2の取得を目指し、能力別クラスによる徹底した指導を行う。 6) 教職センターを中心に教員資格取得に向けた指導体制を強化する。 <ul style="list-style-type: none"> ・対策講座などの充実により、教員採用試験合格者増を目指す。 7) 今年度、外国語学部で開講され、すべてのキャンパスで導入された地域を志向する科目「地域学概論」及び「地域貢献ボランティア」の内容の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・高梁キャンパスの「地域貢献ボランティア」については実施方法を見直し、さらなる充実を図る。 8) 災害時の危機管理体制の強化を図る。(学生の安否確認方法検討など) <ul style="list-style-type: none"> ・各種ハラスメント対策などを実施する。 ・健康管理センターを中心に学生の健康管理及び障害学生の支援を充実させる。 ・学修環境の充実として、多様な学修方法に対応可能な教室の整備を行う。 9) 学生部と学生会や体育・文化部会との密な連携により適宜対応策を講じる。 <ul style="list-style-type: none"> ・学園祭やクラブ活動の活性化を図る。 ・ボランティアセンターを中心に学生のボランティア活動を支援する。 ・吉備国際大学FCシャルムなどの支援を行う。 10) 学長を中心とした中核センター会議およびIR推進委員会等を中心にPDCAサイクルを回し、弛まぬ検証と改革改善を推進する。 11) 学修成果評価の方針(アセスメントポリシー)を策定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・新たに入学時アンケート、卒業後アンケートを実施し、学修動向アンケート、卒業時アンケートとあわせて学修成果の評価として活用していく。 ・学生による授業評価アンケートを継続実施し、分析と評価を実施する。 ・GPA、単位修得状況、学位授与状況、各種資格取得状況、就職状況などのデータを集計・分析し、評価を実施する。
---	-----------	-------------	---

<p>教育力 (学修成果の可視化・ 学生支援を含む。)</p> <p>募集力 (ブランド力)</p>	<p>施策</p>	<p>(R2)</p> <p>◆ 施策1～11)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策1) 授業方法の改善についてのFD研修会を開催する。/GPA1.5未満の学生の指導後の状況をデータ分析するとともに各会議に報告する。継続して成績不振学生の指導を行う。 ・ 施策2) 理学療法学科及び作業療法学科のカリキュラム改正実施。その他の学科の改正について検討を継続する。/全学共通教養科目については、8月を目途に改正案を策定する。 ・ 施策3) 中間報告(9月)として、退学・除籍者の状況を周知し、吉備アプローチの指導方針を徹底する。 ・ 施策4) 中間報告(9月)として、就職・国家試験支援の取り組み状況を確認し、吉備アプローチの指導方針を徹底する。 ・ 施策5) 交流事業の継続実施。/年2回の日本語能力試験(N1、N2)の取得状況(合格率)結果と留学生の修学状況を踏まえ、検討会を開催し対策を講じる。 ・ 施策6) 前年度の教員資格取得状況、教員採用試験結果を踏まえた対応策について、教職センターにおいて検討を速やかに行う。 ・ 施策7) 全学共通教養科目の再編検討により、「地域学概論」、「吉備国際大から世界へ」などの科目を整理し、内容の充実を図る。/「地域貢献ボランティア」の見直しについて効果を検証する。 ・ 施策8) 障害学生への支援について、支援や申請方法を明記した本学のガイドラインを作成する。 ・ 施策9) 開学30周年を記念する学園祭を実施する。/前年度の学友会等からの要望事項に対する処置を講じる。 ・ 施策10) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。 ・ 施策11) 各種アンケートやデータ分析による評価を継続して実施する。/前年度の評価結果を分析し、改善点を検討する。
		<p>(R3)</p> <p>◆ 施策1～11)の継続・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策1) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。 ・ 施策2) 全学共通教養科目及び看護学科などの専門科目の改正を実施。継続して更なる改善を検討する。 ・ 施策3) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。 ・ 施策4) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。 ・ 施策5) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。 ・ 施策6) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。 ・ 施策7) 全学共通教養科目の再編による科目の整理を完了する。 ・ 施策8) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。 ・ 施策9) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。 ・ 施策10) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。 ・ 施策11) 前年度までの施策を継続し、その結果を集約し対策を講じる。
		<p>(R4)</p> <p>◆ 施策1～11)の継続・推進および、その進捗状況の総括と課題についてまとめる。年度末に4年間の総括と今後の課題についてまとめる。また、次期中期目標・計画を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策1) 前年度までの総括と検証を行い、今後の対策と方針を策定する。 ・ 施策2) 全学共通教養科目及び専門科目を改正した学科について、年次進行を行いながら、効果の検証を行う。(各完成年次まで) ・ 施策3) 前年度までの総括と検証を行い、今後の対策と方針を策定する。 ・ 施策4) 前年度までの総括と検証を行い、今後の対策と方針を策定する。 ・ 施策5) 前年度までの総括と検証を行い、今後の対策と方針を策定する。 ・ 施策6) 前年度までの総括と検証を行い、今後の対策と方針を策定する。 ・ 施策7) 前年度までの総括と検証を行い、今後の対策と方針を策定する。 ・ 施策8) 前年度までの総括と検証を行い、今後の対策と方針を策定する。 ・ 施策9) 前年度までの総括と検証を行い、今後の対策と方針を策定する。 ・ 施策10) 前年度までの総括と検証を行い、今後の対策と方針を策定する。 ・ 施策11) アセスメントポリシーの評価結果の検証を行い、評価方法の見直し等を検討する。 <p>◆ 新規施策</p>

研究力	中期目標	1) 地(知)の拠点大学として全教員による地域志向の研究課題の設定 2) 研究力を高め全教員のresearchmap 登録による研究情報発信 3) 附属研究所と連携して大学院の活性化を図り大学院入学定員100%達成 4) 科研費などの外部研究費の新規採択件数の増加 5) 研究力の可視化に努める
	(R元)	1) 全教員が学科、学部単位で地域志向の研究課題を設定し、学部生、大学院生とともに取組み、その解決を図る。 地域課題から世界へ発信できる研究成果を目指す。 2) 全教員は関連学会へ参加し、最新の学術情報を得るなど自己研修に努める。 研究成果の学会での口頭発表や学術誌への投稿に努める。 9月末と3月末に全教員がJSTの教員研究業績登録システムresearchmapに研究情報を登録する。 3) 附属研究所をさらに活用して教育研究活動の活性化を計る。大学院FD研修を行う。 大学院オープンキャンパスにあわせて吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを開催し、本学の研究成果を広くアピールする。 4) 全教員が科研費を始めとする外部研究費獲得を目標として、新規採択件数増を図る。 共同研究費を効果的に配分し科研費の採択件数増を支援する。 5) JSTの教員研究業績登録システムresearchmapに登録された研究情報及び文部科学省ホームページに公表される「研究者が所属する研究機関別 採択件数・配分一覧」等により研究力の可視化に努める。
	(R2)	◆ 施策1～5)の継続・推進 ・ 施策1) 全教員による地域志向研究課題の発表状況(論文・学会報告など)を集約し、対策を講じる。 ・ 施策2) 教員の関連学会への参加状況を集約し、対策を講じる。researchmapの登録状況を各学科で確認し、対策を講じる。 ・ 施策3) 大学院オープンキャンパスにあわせて吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを開催し、本学の研究成果を広くアピールする。大学院入学定員達成率の調査結果を集約し、対策を講じる。 ・ 施策4) 共同研究費配分者の科研費採択率の調査結果を集約し、対策を講じる。
	(R3)	◆ 施策1～5)の継続・推進 ・ 施策1) 全教員による地域志向研究課題の発表状況(論文・学会報告など)を集約し、対策を講じる。 ・ 施策2) 教員の関連学会への参加状況を集約し、対策を講じる。researchmapの登録状況を各学科で確認し、対策を講じる。 ・ 施策3) 大学院オープンキャンパスにあわせて吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを開催し、本学の研究成果を広くアピールする。大学院入学定員達成率の調査結果を集約し、対策を講じる。 ・ 施策4) 共同研究費配分者の科研費採択率の調査結果を集約し、対策を講じる。
	(R4)	◆ 施策1～5)の継続・推進 ・ 施策1) 全教員による地域志向研究課題の発表状況(論文・学会報告など)を集約し、対策を講じる。 ・ 施策2) 教員の関連学会への参加状況と科研費獲得の関連性の統計を集約し、対策を講じる。 ・ researchmapの登録状況と科研費の関連性の統計結果を集約し、対策を講じる。 ・ 施策3) 大学院オープンキャンパスにあわせて吉備国際大学附属研究所合同シンポジウムを開催し、本学の研究成果を広くアピールする。大学院入学定員達成率の調査結果を集約し、対策を講じる。 ・ 施策4) 共同研究費配分者の科研費採択率の調査結果を集約し、対策を講じる。 ◆ 新規施策

地域連携力	中期目標	1) 地(知)の拠点大学として社会貢献の推進 2) 生涯学習講座の開催 3) 国際大学が行う高大連携として英語スピーチコンテストを企画する 4) 高梁市及び高梁市医師会と連携した地域の医療・福祉の発展への寄与 5) 産学官連携推進 6) 改革・改善に対する柔軟な対処
	(R元)	1) 『地(知)の拠点整備事業』(平成25年度文部科学省事業採択)で取り組んできた事業についてできるだけ継続し発展させていく。 『地(知)の拠点大学による地方創成推進「COCプラス」事業』(中核大学:岡山県立大学)および同事業(中核大学:神戸大学)に採択された事業に参加校および協力校として参画する。 『私立大学研究ブランディング事業』(平成29年度文部科学省事業採択)最終年度の事業を遂行する。 2) 吉備国際大学公開講座、岡山県生涯学習大学、吉備創成カレッジなどを実施する。 3) 岡山県内の高校生を対象とした英語スピーチコンテストを主催する。 4) 高梁市医療計画検討委員会、高梁市医療機関連携推進部会に委員として参加して高梁市との連携を進める。 地域医療福祉センター(スキルラボ・フィットネスラボ)の活用を図る。 5) 産業界との連携を推進するために岡山・産学官連携推進会議に参画し、岡山リサーチパーク研究・展示発表会、おかやま生体信号研究会等に参加する。 新規の産学連携協定につながる事例を開発する。 企業や自治体からの受託研究を受け入れるよう努める。
	(R2)	◆ 施策1～5)の継続・推進 ・ 施策1) 継続した取り組みを行うとともに、次期事業についての検討を行う。 ・ 施策2) 公開講座等の総括とまとめを作成する。 ・ 施策3) 前年度の実施状況を踏まえた取り組みを行う。 ・ 施策4) 前年度の実績を踏まえ、新規の企画を含め実施する。 ・ 施策5) 新規の受託研究を受け入れるよう努める。
	(R3)	◆ 施策1～5)の継続・推進 ・ 施策1) 継続した取り組みを行うとともに、次期事業についての検討を行う。 ・ 施策2) 公開講座等の総括とまとめを作成する。 ・ 施策3) 前年度の実施状況を踏まえた取り組みを行う。 ・ 施策4) 前年度の実績を踏まえ、新規の企画を含め実施する。 ・ 施策5) 新規の受託研究を受け入れるよう努める。
	(R4)	◆ 施策1～5)の継続・推進および、その進捗状況の総括と課題についてまとめる。年度末に4年間の総括と今後の課題についてまとめる。また、次期中期目標・計画を定める。 ・ 施策1) 継続した取り組みを行うとともに、次期事業についての検討を行う。 ・ 施策2) 各公開講座の総括と実施内容について検証を行う。次期目標・計画を定める。 ・ 施策3) 4年間の活動の総括と検証を行い、次期目標・計画を定める。 ・ 施策4) 期間中の活動を総括し、実施内容を定める。 ・ 施策5) 期間中の取り組みを総括し、特に産学連携協定の実現状況を踏まえ、対策を講じる。 ◆ 新規施策 学部、学科、研究科の年次進行状況を踏まえ4年間の中期目標達成度の評価と今後の課題についての総括を行い、次期中期目標計画書の作成を行う。

学 部 · 学 科

ビジョン (キャッチフレーズ)		現代社会の課題に挑む！ 社会現象のメカニズム、人々の生活課題、様々な社会問題の探求を通して、現代社会の仕組みを理解し、社会に貢献できる人材を養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 社会学、経営学、スポーツ・健康科学に関する専門的な知識とその知識を活用する能力を身につけた人を養成する。 2) 様々な社会の諸事象を認識し、国際社会と地域社会を視野に入れながら行動できる人を養成する。 3) 協調性と創造性を併せ持ち、社会に対して自ら積極的に働きかけができる人を養成する。 4) 生涯にわたり学び続けることができる能力を持った人を養成する。 5) 全学生が挨拶ができるようになり、人間性を身につけ、就職率を100%とする。学生が満足する質の高い教育を提供し、学生募集につなげる。 6) 留学生に質の高い日本語教育プログラムを提供し、教育効果を向上させる。 7) 経営学、社会学、スポーツ科学による地域貢献活動を展開する。
	(R元)	1) 学生支援・就職支援:「日本一面倒見の良い学科」「就職に強い学科」の実現と、魅力ある経営学・社会学の融複合型教育による学生満足度と就職率の向上を図る。 2) 退学者対策:成績不振の学生や登校しない学生等を早期に把握し指導する。退学率は2.5%以下に止める。 3) 入学定員充足率:全教員の地域広報等を通して、入学定員を充足させる。 4) (留学生の)N2/N1合格率アップのために、チューター・ゼミ担当教員による個別的な日本語教育を実施する。 5) 新カリキュラムの検討:学生にとって魅力あるカリキュラム作り。 6) 健康づくりや介護予防を目的とした運動指導の専門家に対する需要が高まる中、健康運動指導士及び健康運動実践指導者資格試験の合格率をさらに高めるべく、指導体制を強化する。試験担当者を各1名から各2名に増員する。 7) 保健体育教員免許取得者の増加、更には教員採用試験合格者の増加をめざす。学内の教員養成システムとの連動を促進し、学科内でも基礎学力の向上、学生のモチベーションの維持・向上を図る方策を講じる。 8) 高梁市と連携して実施している健康寿命延伸事業を継続し、地域に貢献するとともに学生の健康運動現場経験として継続して実施する。学生スタッフの人数増加をはかり、学生および教員の負担を軽減する。
	施策	◆ 施策1)～8)の継続と推進 ・特に施策6)の健康運動指導士および健康運動実践指導者の就職開拓を行う。 ◆ 新規施策 9) チューター・ゼミごとの担当教員のきめ細かな学生指導と教員間の情報共有および連携を通じた包括的な学生支援体制を確立する。 10) GPAが2.0以下の学生に対して、ゼミ教員が徹底した指導を行う。 11) 学科ホームページ・ブログ強化と高校出張講義や説明会等を強化する。 12) 経営社会学科では各先生が週1回以上のゼミで日本語教育を行う。 13) 新カリキュラムの申請。 14) 新たなカリキュラムの下で、スポーツコーチの専門的知識を教授する。これによって、在学中及び卒業後、何らかのスポーツ種目のコーチ資格を取得する基礎となす。スポーツビジネス、マネジメントに関する新しい資格導入について検討し、マネジメントコースの学生のモチベーションアップにつなげる。 15) 協会認定資格の取得者の増加を図る。あわせて、総合型スポーツクラブや、各種スポーツ組織、競技スポーツクラブなどにおけるマネジメントスタッフの輩出と、その就職先の開拓に努める。 16) 高梁市と連携している健康寿命延伸事業に加えて、地域と連携し住民対象のスポーツによる社会貢献活動を年間を通じて行う。その効率的な事業実施のために本学ならびに本学科が関与している地域貢献事業の把握を行う。

<p>教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。)</p> <p>募集力 (ブランド力)</p>	<p>施策</p>	<p>(R3)</p> <p>◆ 施策1)～16)の継続と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策10)ではGPAを活用した学生教育支援方法を新たに検討する。 ・ スポーツ社会学科ではより多様なスポーツ種目を経験している学生を獲得できるように、学科内の教員構成含め、方策を検討する。 <p>◆ 新規施策</p> <ol style="list-style-type: none"> 17) アクティブ・ラーニングの積極的な取組みを支援する。 18) 全教員の出前授業・公開講座、広報活動を行う。 19) 日本語授業への出席、日本語能力試験対策への出席を指導する。 20) 新カリキュラム導入。 21) 本学科の専門性を生かして、従来本学科が対象としてきたスポーツ系の分野に含まれない、スポーツビジネス分野の就職先の開拓に努め、学生の進路として位置づける。 22) 本学科の研究やスポーツ指導実践やスポーツ事業の実施によって蓄積・構築した、スポーツ指導ノウハウやトレーニングプログラム、スポーツ事業運営ノウハウなどを、SNS等を活用し、社会に対して発信・提供する。
		<p>(R4)</p> <p>◆ 施策1)～22)の継続と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ社会学科では在校生の今まで以上のスキルアップならびにモチベーション向上のための新たな取り組みについて検討する。 <p>◆ 新規施策</p> <ol style="list-style-type: none"> 23) 授業の質の向上と就職の動機づけ・イメージ作り教育を一層強化する。 24) 学科独自の新入生歓迎会等のイベント開催による教員・学生間の意思疎通の円滑化を図る。 25) 全教員の地域広報活動による入学定員の充足を図る。 26) 学科取組みの新たな日本語支援策を検討し、実施する。 27) 新カリキュラム運営。 28) マネジメントスキルの向上の機会を増やすためにすために、学内で実施する健康寿命延伸事業にスポーツマネジメント・コーチコースの学生の参加を促進する等現場における経験の機会を増やす。 29) コースやゼミを超えた交流を実施する。それぞれのコースの研究内容や実践について、更に教職希望者も交え、情報共有を行う。各コースおよび教職関連の情報を共有することにより、学科として新しい事業展開を模索する。

研究力	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 1) 社会の様々な事象が起きる仕組み、人々の身体や健康について研究し、社会問題の解決を目指す。 2) 地域志向の研究に関与する。 3) researchmapアップデートを行い適切な情報発信を行う。 4) 科研費、その他の研究費の獲得を目指す。 5) 学会等で教員研究成果を発表し、研究成果の社会への還元を行う。 	
	施策	(R元)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 施策1)～3)の実施 1) 全教員が年間1回以上は学会に参加する。 2) 1/3の教員が地域志向研究課題を設定する。 3) 全教員が4月と10月にresearchmapのアップデートを行い適切な情報発信を行う。
		(R2)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 施策1)～3)の継続と推進。 ・ 施策2)では半数の教員が地域志向研究課題を設定する。 ◆ 新規施策 4) 半数の教員が研究費に応募する。 5) 全教員が2年に1回以上学会発表を行う。
		(R3)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 施策1)～5)の継続と推進。 ・ 施策4)では、特任教員を除く全教員が研究費への応募を目指す。 ◆ 新規施策 6) 社会科学部内学術交流会を開催する。 7) 全教員が令和元年度～令和3年度の間、大学紀要に論文を投稿する。
		(R4)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 施策1)～7)の継続と推進。 ・ 施策6)を発展させ学部内共同研究の可能性を探る。 ◆ 新規施策 8) 全教員が令和元年度～令和4年度の間、1編以上の論文を論文誌に投稿する。

地域連携力	中期目標	1) 社会貢献の推進。 2) 生涯学習講座等地域連携講座の開催。 3) 学部・学科・教員は、その研究活動の成果を広く地域社会に還元する。 4) 高等教育機関としての責任を自覚し、環境問題を含む社会問題の解決に取り組む。 5) 地域委員会等に参画し専門的な知識を地域に提供する。	
	施策	(R元)	1) 引き続き高梁市と連携した健康講座に取り組む。 2) 公開講座等に毎年講師を派遣する。 3) 学部、学科、研究室単位で地域貢献ボランティア活動に取り組む。 4) 高等学校との連携を強め、高校生教育に貢献する。 5) 留学生を活用した国際理解講座を推進する。
		(R2)	◆ 施策1)～5)の継続と推進。 ・ 施策4)では人材育成講座等も行う。 ◆ 新規施策 6) 高梁市を含む地域の委員などの要請に積極的に取り組む。 7) 地域づくりに関係したフォーラムを開催する。
		(R3)	◆ 施策1)～7)の継続と推進。 ・ 施策1)に関連した施設を高梁市に設置してもらえるよう働きかけを行う。 ◆ 新規施策 8) 地域課題の解決を目指して、学部と地域団体との連携活動に取り組む。
		(R4)	◆ 施策1)～8)の継続と推進。 ・ 施策7)では地域人材育成講座も開催する。 ◆ 新規施策 9) 産・官・学・民の連携活動に取り組む。

ビジョン (キャッチフレーズ)		時代を生き抜く経営学と社会学を学ぶ！ 経営・社会・環境について学び、協調性と創造性を磨き、グローバル化への対応能力を培い、持続可能な社会を担う人材を養成します。		
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 社会学、経営学、スポーツ・健康科学に関する専門的な知識とその知識を活用する能力を身につけた人を養成する。 2) 様々な社会の諸事象を認識し、国際社会と地域社会を視野に入れながら行動できる人を養成する。 3) 協調性と創造性を併せ持ち、社会に対して自ら積極的に働きかけができる人を養成する。 4) 生涯にわたり学び続けることができる能力を持った人を養成する。		
	施策	(R元)	1) 学生支援・就職支援:「日本一面倒見の良い学科」「就職に強い学科」の実現と、魅力ある経営学・社会学の融複合型教育による学生満足度と就職率の向上を図る。 2) 退学者対策:成績不振の学生や登校しない学生等を早期に把握し指導する。 3) 入学定員充足率:全教員の地域広報等を通して、入学定員を充足させる。 4) (留学生の)N2/N1合格率アップのために、チューター・ゼミ担当教員による個別的な日本語教育を実施する。 5) 新カリキュラムの検討:学生にとって魅力あるカリキュラム作り。	
		(R2)	1) チューター・ゼミごとの担当教員のきめ細かな学生指導と教員間の情報共有および連携を通じた包括的な学生支援体制を確立する。 2) GPAが2.0以下の学生に対して、ゼミ教員が徹底した指導を行う。 3) 学科ホームページ・ブログ強化と高校出張講義や説明会等を強化する。 4) 経営社会学科では各先生が週1回以上のゼミで日本語教育を行う。 5) 新カリキュラムの申請	
		(R3)	1) GPAを活用した学生教育支援方法を新たに検討する。 2) アクティブ・ラーニングの積極的な取組みを支援する。 3) 全教員の出前授業・公開講座、広報活動を行う。 4) 日本語授業への出席、日本語能力試験対策への出席を指導する。 5) 新カリキュラム導入。	
		(R4)	1) 授業の質の向上と就職の動機づけ・イメージ作り教育を一層強化する。 2) 学科独自の新入生歓迎会等のイベント開催による教員・学生間の意思疎通の円滑化を図る。 3) 全教員の地域広報活動による入学定員の充足を図る。 4) 学科取組みの新たな日本語支援策を検討し、実施する。 5) 新カリキュラム運営。	

ビジョン (キャッチフレーズ)		スポーツを通じて人を支え、社会をつくる人材を育てる スポーツおよび健康運動の指導、組織化、運営に関する知識と技術を身につけ、スポーツおよび健康関連分野でリーダーシップを発揮できる人材を養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 健康の維持・増進、さらに高齢者の介護予防などを目的とする運動指導を専門的に行える人材を養成する。 2) スポーツの特性を生かして、学校教育の場において、教育目標の達成に資することのできる、保健体育教諭を養成する。 3) スポーツ・健康関連事業による地域貢献活動を展開する。 4) 総合型スポーツクラブや各種のスポーツ組織、競技スポーツクラブやチームにおいて、組織の運営に従事する専門的マネジメント能力を備えた人材を養成する。 5) 諸種のスポーツ競技において、コーチングの専門的な知識・技能を有した人材を養成する。
	(R元)	1) 健康づくりや介護予防を目的とした運動指導の専門家に対する需要が高まる中、健康運動指導士及び健康運動実践指導者資格試験の合格率をさらに高めるべく、指導体制を強化する。試験担当者を各1名から各2名に増員する。 2) 保健体育教員免許取得者の増加、更には教員採用試験合格者の増加をめざす。学内の教員養成システムとの連動を促進し、学科内でも基礎学力の向上、学生のモチベーションの維持・向上を図る方策を講じる。 3) 高梁市と連携して実施している健康寿命延伸事業を継続し、地域に貢献するとともに学生の健康運動現場経験として継続して実施する。学生スタッフの人数増加をはかり、学生および教員の負担を軽減する。
	施策 (R2)	◆ 施策1)～3)を継続して推進し、特に健康運動指導士および健康運動実践指導者の就職開拓を行う。 ◆ 新規施策 4) 新たなカリキュラムの下で、スポーツコーチの専門的知識を教授する。これによって、在学中及び卒業後、何らかのスポーツ種目のコーチ資格を取得する基礎となす。スポーツビジネス、マネジメントに関する新しい資格導入について検討し、マネジメントコースの学生のモチベーションアップにつなげる。 5) 協会認定資格の取得者の増加を図る。あわせて、総合型スポーツクラブや、各種スポーツ組織、競技スポーツクラブなどにおけるマネジメントスタッフの輩出と、その就職先の開拓に努める。 6) 高梁市と連携している健康寿命延伸事業に加えて、地域と連携し住民対象のスポーツによる社会貢献活動を年間を通じて行う。その効率的な事業実施のために本学ならびに本学科が関与している地域貢献事業の把握を行う。
(R3)	◆ 施策1)～6)を継続して推進し、より多様なスポーツ種目を経験している学生を獲得できるように、学科内の教員構成含め、方策を検討する。 ◆ 新規施策 7) 本学科の専門性を生かして、従来本学科が対象としてきたスポーツ系の分野に含まれない、スポーツビジネス分野の就職先の開拓に努め、学生の進路として位置づける。 8) 本学科の研究やスポーツ指導実践やスポーツ事業の実施によって蓄積・構築した、スポーツ指導ノウハウやトレーニングプログラム、スポーツ事業運営ノウハウなどを、SNS等を活用し、社会に対して発信・提供する。	

<p>教育力 (学修成果 の可視化・ 学生支援 を含む。)</p> <p>募集力 (ブランド力)</p>	<p>施策</p>	<p>(R4)</p>	<p>◆ 施策1)～8)を継続して推進し、在校生の今まで以上のスキルアップならびにモチベーション向上のための新たな取り組みについて検討する。</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>9) マネジメントスキルの向上の機会を増やすためにすために、学内で実施する健康寿命延伸事業にスポーツマネジメント・コーチコースの学生の参加を促進する等現場における経験の機会を増やす。</p> <p>10) コースやゼミを超えた交流を実施する。それぞれのコースの研究内容や実践について、更に教職希望者も交え、情報共有を行う。各コースおよび教職関連の情報を共有することにより、学科として新しい事業展開を模索する。</p>
--	-----------	-------------	---

ビジョン (キャッチフレーズ)		保健医療福祉のスペシャリスト養成！ 次世代を担う質の高い保健医療福祉の専門家を養成します。		
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	団塊の世代が後期高齢者になる2025年を見据えて、医療専門職を多数送り出す。 国家試験の合格率を他大学より高め、そのことを募集力とする。 それぞれの職種についての知識と技術を高めるのみならず、現場で求められる多職種連携のための、他職種とのコミュニケーション能力を高める。		
	施策	(R元)	1) 各学科で行われる専門職教育と国家試験対策を推進する。 2) 1年時に配置されている基礎医学の理解が進むように支援する。 また、保健医療福祉概論で多職種連携のもとに行われている医療福祉システムの理解が進むように取り組む。	
		(R2)	◆ 施策1-2)の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 2年時に配置されている臨床医学系の科目について、理解が進むように取り組む。	
		(R3)	◆ 施策1-3)の継続・推進 ◆ 新規施策 4) 3年時に配置されている専門科目について、理解が進むように支援する。 臨床実習が円滑に進むように支援する。	
		(R4)	◆ 施策1-4)の継続 ◆ 新規施策 5) 全教員が国家試験対策に取り組む。	
研究力	中期目標	学部教員は、保健科学研究科の方針に則り、大学院生と共に研究に取り組む。 学部全体の研究テーマとして、「国家試験合格率100%をもたらす方策」を設定する。		
	施策	(R元)	「国試100%合格を導く方策」として、以下を行う。 1) 2019年度入学生を対象に、「看護師、理学・作業療法士」について自分の将来の職業として意識している状況を調査する。 2) 医療系の概論において、将来の職業イメージを高める。 3) 1年時に配置されている基礎医学の理解度を高める方策を検討する。	
		(R2)	◆ 施策1-3)を継続・推進する。 ◆ 新規施策 4) 2年時に配置されている臨床医学系科目の理解を高める方策を検討する。	
		(R3)	◆ 施策1-4)を継続・推進する。 ◆ 新規施策 5) 3年時に配置されている専門科目について、理解が進むように取り組む。 臨床実習が円滑に進むように取り組む。	
		(R4)	◆ 施策1-4)を継続・推進する。 ◆ 新規施策 6) 全教員が国家試験対策に取り組む。	

地域連携力	中期目標	地域の保健医療福祉専門職のリカレント教育に貢献する。 一般市民の方々への保健医療福祉への啓蒙活動を行う。
	(R元)	1) 高梁市、高梁医師会等の関係する職能団体、医療福祉施設が推進している事業に参画する。 2) 市の健康づくり課、医師会が行っている講演会等で、講師を務める。 3) 市の教育委員会が行っている「高梁こどもの夢事業」に協力する。
	施策 (R2)	◆ 施策1-3)の継続・推進
	(R3)	◆ 施策1-3)の継続・推進
	(R4)	◆ 施策1-3)の継続・推進
その他	中期目標	
	施策	

ビジョン (キャッチフレーズ)		あたたかな心と看護の確かな知識と技術を育む！ あたたかな「看護の心」と確かな知識・技術を身につけた看護専門職を養成し、地域の保健医療の発展に貢献します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	保健医療の創造的発展に寄与する人材を養成する ↑ 1) あたたかな看護の心を育み、人間と生命の尊厳を護る倫理的態度を醸成 2) 科学的根拠に基づくケアを実践する看護専門職としての力量を醸成 3) 看護師・保健師、養護教諭一種・高校教諭一種の人材育成を充実・強化 4) 国家試験(看護師・保健師)合格率100%達成・維持 5) 県内外の保健医療関係機関との連携を深め、看護実践力指導を向上 6) 学生の希望に基づく進路(就職・進学)決定100%を達成・維持
	(R元)	1) あたたかな看護の心を育み、人間と生命の尊厳を護る倫理的態度を醸成 カリキュラム改正(新カリ)に基づく吉備国際大学の特徴あるカリキュラム/多様な保健医療現場での学びを深化/地域の保健医療に貢献する看護職養成 2) 科学的根拠に基づくケアを実践する看護専門職としての力量の醸成 看護基礎教育の充実・強化(複数教員による丁寧な指導)/実習指導方法・講義の洗練化・継続化/地域医療福祉センター、保健福祉研究所など附属施設を活用した学習強化/看護研究の強化/教員のFD研修を充実 3) 看護師・保健師、養護教諭一種・高校教諭一種の人材育成を充実・強化 編入生を含む入学定員の確保と維持/学生自ら学ぶ力の醸成/看護師・保健師・養護教諭・高等学校教諭の専門教育の発展強化/リメディアル教育の強化 4) 国家試験(看護師・保健師)合格率100%達成・維持 1～4年次の系統的な学習保障/低学年からの国家試験対策システム化/学生の力量早期見極め/学科教員の全員指導体制/学習環境整備 5) 県内外の保健医療関係機関との連携を深め、看護実践力指導を向上 保健医療現場での学びの洗練化と実践/実習施設との連携強化/実習指導者との綿密な打ち合わせ/シュミレーション教育の導入/地域保健医療との連携強化/地域発展につながる貢献 6) 学生の希望に基づく進路(就職・進学)決定100%を達成・維持 学年毎のキャリア教育/学生の希望と適性に応じた早期指導/キャリアサポートセンターと協働した就職指導/学科独自の就職説明会・ガイダンス
	施策	◆ 施策1－6)の継続・推進 ◆ 新規施策 施策1) 新カリ創設・実施体制の整備(評価基準の明確化) 施策2) 看護研究体制の充実・強化 施策3) 教員の指導力アップ研修参加(全体教員2割参加)
	(R2)	◆ 施策1－6)の継続・推進 ◆ 新規施策 施策1) 看護教育体制の整備 施策2) 看護研究体制の評価・計画 施策3) 教員の指導力アップ研修参加(全体教員4割参加)
	(R3)	◆ 施策1－6)の継続・推進 ◆ 新規施策 施策1) 看護教育実施体制の評価 施策2) 看護研究体制の評価 施策3) 教員の指導力アップ研修参加(全体教員6割参加)
(R4)	◆ 施策1－6)の継続・推進 ◆ 新規施策 施策1) 看護教育実施体制の評価 施策2) 看護研究体制の評価 施策3) 教員の指導力アップ研修参加(全体教員6割参加)	

ビジョン (キャッチフレーズ)		私立大学の伝統ある理学療法士養成課程！ 培ってきた「教育の質」と「社会的信頼」、学生満足度に資する学修環境を追求し、選んで頂けるオンリーワンの理学療法士養成課程を目指す。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 「教育の質」のアウトカム“国試合格率100%”の達成 2) 養成校乱立・二極化に打ち勝ち、入学定員充足率100%を達成する 3) 就職率100%堅持・“社会的信頼の裏打ち”求人総数1,000名以上の水準確保 4) 超高齢社会ニーズに対応する“地域で活躍できる人材”を養成する教育洗練化 5) 専門職としての自律と豊かな人間性を育む、面倒見良い行き届いた教育推進 ↓ 受験生のファーストチョイスに相応しい学科作りを推進し、定員充足率の回復と安定化を追求する。
	施策	1) 国試合格率100%達成に向けた対策洗練化(目標1・2・3) 国試対策ペースの早期化／個別性重視の留年生対策強化／入学後各学年での国試対策学修洗練化／学修環境整備 2) 受験者・入学者確保対策, 学科広報活動の推進(目標2) 学科HPの充実、新規SNSの取組開発による学科の魅力発信／近隣や県北校とのパイプ強化／新規顧客開拓・専門学校志望者層の取込推進 3) 就職対策の洗練化(目標3) 就職指導の強化／各種イベントへの積極的参画／OB活用・臨床実習とリンクした求人開拓・採用確保 4) 教育の質追求(目標4・5) 入学後早期からの基礎学力教育推進／アンケート結果に基づく授業改善とハラスメント防止／指摘規則改正に伴う新たな臨床実習教育の整備と安定的運用 5) 学科教育システムの洗練化(目標4・5) 退学リスク学生対策構築／チューター・ゼミ機能充実／学生情報共有・指導システム化／地域で活躍できる人材を養成する吉備独自の「地域体験実習」推進 6) 魅力ある新カリキュラム(今期申請)の構築(目標1・2・4・5)
	(R2)	◆ 施策1-5)の継続・推進 * 各施策ともに前年度結果を再検証し対策を講ずる ・ 施策1) 国試合格率100%達成: “最重点課題”に位置付け、前年度結果分析に基づき対策を精緻化。 ・ 施策2) 学科広報戦略: 対策の再検証と見直しを推進。 “吉備でなければ学べない”アピールすべきオンリーワンのカラーを、施策取組で明確化・可視化し訴求。 ・ 施策4) 教育の質追求: 「アセスメントポリシー」に基づく学内学修成果の評価に基づき、学科教育の効果の再検証と対策を検討する。 ◆ 新規施策(※取組変更) 6) 魅力ある新カリキュラムの安定的運用(目標1・2・4・5) 新カリが適用される一年次生に対する安定的運用と実質化／次年度以降を見据えた新たな臨床実習教育の整備。

<p>教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。)</p> <p>募集力 (ブランド力)</p>	<p>施策</p>	<p>(R3)</p>	<p>◆ 施策 1-6)の継続・推進</p> <p>* 各施策ともに前年度結果を再検証し対策を講ずる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策1) 国試合格率100%達成: “最重点課題”に位置付け、前年度結果分析に基づき対策を精緻化。 ・ 施策2) 学科広報戦略: 対策の再検証と見直しを推進。 “吉備でなければ学べない”アピールすべきオンリーワンのカラーを、施策取組で明確化・可視化し訴求。 ・ 施策4) 教育の質追求: 「アセスメントポリシー」に基づく学内学修成果の評価に基づき、学科教育の効果の再検証と対策を検討する。 ・ 施策6) 新カリキュラムの安定的運用: 前年度実績を踏まえた1年次生への運用／2年次生の安定的運用と実質化／次年度以降を見据えた新たな臨床実習教育の整備。
		<p>(R4)</p>	<p>◆ 施策 1-6)の継続・推進</p> <p>* 各施策ともに前年度結果を再検証し対策を講ずる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策1) 国試合格率100%達成: “最重点課題”に位置付け、前年度結果分析に基づき対策を精緻化。 ・ 施策2) 学科広報戦略: 対策の再検証と見直しを推進。 “吉備でなければ学べない”アピールすべきオンリーワンのカラーを、施策取組で明確化・可視化し訴求。 ・ 施策4) 教育の質追求: 「アセスメントポリシー」に基づく学内学修成果の評価に基づき、学科教育の効果の再検証と対策を検討する。 ・ 施策6) 新カリキュラムの安定的運用: 前年度実績を踏まえた1・2年次生への運用／3年次生の安定的運用と実質化／新たな臨床実習教育の具体化。 <p>◎ 施策 1-6)の進捗状況の総括と課題の明確化。次期中期目標・計画の設定。</p>

ビジョン (キャッチフレーズ)		作業療法士としての輝かしい未来を拓く！ 作業療法の基礎から最先端の理論と実践を教授し、作業療法士としての多様性のある輝かしい未来を拓きます。	
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 国家試験の新卒生100%合格達成、9月卒業生・既卒生の合格率向上 2) 新入学者数の回復、定員確保 3) 年間退学者2名以内 4) 多様なキャリアを選択できる支援体制の構築	
	(R元)	1) 国家試験の新卒生100%合格達成、9月卒業生・既卒生の合格率向上 (中期目標1) 国家試験合格基準としての卒業判定の厳格化／学内模試10回、業者模試6回を実施／4年生の臨床実習終了後より早期臨戦態勢／国試再チャレンジ生の大学再集結促進、予備校を活用した通信指導体制構築／9月卒業生のための学習環境整備／国試対策予備校による講座開催、学習(指導)法の修得／全学年での国家試験を意識した学習の推進 2) 新入学者数の回復、定員確保(中期目標2) オープンキャンパス内容の充実／オープンキャンパス参加者へのフォロー充実／学科独自のブログの充実・発展／高校への出前授業の拡大／OB学生との連携／学科オリジナルホームページの作成と運用／SNSでの学科情報発信／高校生や教師が集まるイベントへの広告／在学生の出身校に対する大学PR 3) 年間退学者2名以内(中期目標3) チューターを核にきめ細かい生活・学修指導／臨床評価実習に向けての実習前試験実施／総合臨床実習前のソーシャルスキルトレーニング 4) 多様なキャリアを選択できる支援体制の構築(中期目標4) 理学療法学科と合同でやる気アップセミナー開催(OB・OG参加)／自己啓発、セルフマネジメントおよびセルフブランディングの促進プログラム実施／保育士など複数資格の取得が可能なシステム構築	
	施策 (R2)	◆ 施策 1)－4)の継続・推進 ・ 施策 1) 新卒生100%合格達成／前年度の結果を詳細に分析、対策の洗練化／基礎ゼミを開始、入学直後から学習方法の習得に向けた指導強化／WEB学習システムの推進 ・ 施策 2) 学科ホームページの定期的な更新／オープンキャンパス参加者や出張講義で興味をもった高校生の個別フォロー継続 ・ 施策 3) 卒業生による実習前試験の外部評価 ・ 施策 4) 保育士など複数資格取得に向けた手続き開始	
	(R3)	◆ 施策 1)－4)の継続・推進 ・ 施策 1) 1年次から4年次までの国家試験合格に向けた教育システムの洗練／WEB学習システムの強化 ・ 施策 2) 前年度、個別フォローした高校2年生(以下も含む)のオープンキャンパス参加促進／継続的な個別フォロー(DM送付など) ・ 施策 3) 卒業生による特別講演や相談会の実施 ・ 施策 4) 複数資格取得希望者の講義開始／OB・OGによる講演会開催／インターンシップへの参加促進／キャリアデザインに関する外部講師の講話実施	
(R4)	◆ 施策 1)－4)の継続・推進 ・ 施策 1) 1年次から4年次までの国家試験合格に向けた教育システムの完成 ・ 施策 2) 40名の入学者確保、定員充足 ・ 施策 3) 教員・在校生・卒業生合同のホームカミングデー実施 ・ 施策 4) 病院や施設以外で働く人材の輩出		

ビ ジ ョ ン (キャッチフレーズ)		福祉の学びを自分と他者のより良い人生を築く力に！ 福祉教育を通じた一人ひとりの個性を輝かせる人間力の養成と 寄り添う力・生きる力の養成を目指します。	
教育力 (学修成果 の可視化・ 学生支援 を含む。)	中期目標	1) 学生一人ひとりの能力を重視し、細やかな教育と支援による豊かな人間性 発揮へ 2) 退学者年間1%未満の実現(転学科生の退学者0%の実現) 3) 国家試験合格率:国家試験合格全国平均(大学新卒者)を超える	
	施策	(R元)	1) 国家試験他、資格、キャリアアップ教育の徹底 個別の力量に沿った国家試験対策:模擬試験、模試結果に基づく個別面談の 徹底、学修進度に沿った教員モニタリングの実施。 学生の希望に沿った就職(就職率95%の達成)と、各自進路に沿った資格取得 や研修体験の促進。 2) 個別性重視の教育(課題発見型教育)の推進 個別学修課題を克服し、年次ごとの課題克服のステップを踏めるように教育 (記述力指導、個別性把握、体験による学び強化)。 3) 社会貢献力の養成と他職種との連携力強化 「地域貢献ボランティア」、「地域学概論」の授業を通して、地域理解を深める。 ボランティアセンターでのボランティア活動により、基礎的な対人関係能力の 向上を図る。 学部内の合同授業や、他学科生等との交流を活かし、学生のコミュニケーション 能力と連携力・調整力を高める。
		(R2)	◆ 施策 1-3)の継続・推進(以下、各項目の強化策) ・ 施策2)学科一丸となり、個別に学生の能力の延伸を図る工夫を協議。国家試験 対策の強化と、キャリア教育の充実。 ・ 施策2)進路変更学生(転学科生)を退学させない教育的心理的支援を強化。 学生一人ひとりに日本語検定、漢字検定等の能力向上のための具体的克服策 を提示。 ◆ 新規施策 4) 少人数の学科在学生故の、学科全体の学修や交流環境、スペースの充実化。
		(R3)	◆ 施策 1-4)の継続・推進(以下、各項目の強化策) ・ 施策2) 個別の教育および学生支援を通して、成長過程を随時整理し、学科 全体で共有。 ・ 施策4) 交流スペースの充実として、学生と教員を含めたイベント等の開催。

ビジョン (キャッチフレーズ)		「こころ」を科学し、心理学マインドを身につける！ 「こころ」についての理解を深め、よりよい人間関係を築く力を養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 学部入学者の定員確保について 学部・学科の特色をアピールし、学部定員(心理学科40、子ども発達教育学科40、計80名)の確保を目指す。 2) 退学者について 各学科教員の連携、チューター、ゼミ担当教員のきめ細かな指導を通じて退学者ゼロを目指す。 3) 就職率の向上について 学生の就職に対する動機づけを強化し、100%の就職率を目指す。 4) 学生の学力向上について 積極的な受講態度を涵養するとともに学習習慣を身につけさせ学力を向上させる(平均GPA2.5以上を目指す)
	施策 (R元)	1) 定員確保について ・心理学科、子ども発達教育学科双方の教育特色・魅力をわかりやすく紹介するパンフ・チラシを作成し、高校への出張講義や説明会等において配布しアピールする。 ・両学科の現状紹介や動向、卒業生・在学生の現状報告等を掲載した、「学部ニュースレター」を作成し、学生の出身高校へ配布する。(高校と学科とのパイプ作りと信頼関係の強化) ・両学科の魅力をアピールするために、高校生を対象とした各種の講演会、入門講座、シンポジウム等をOC前に開催し、参加意欲の向上を図り、入学希望者の増加を目指す。 2) 退学者対策 ・1, 2年次においては、基礎学力の向上を図るとともに、学内外のフィールドにおける野外活動を実施し、学生同士(同輩・先輩・後輩)の友好・互恵的な人間関係を構築するとともに各教員との信頼関係を強化し、プライド・アイデンティティの形成や自尊感情の醸成を図り、学習意欲の維持強化と学生生活への適応力を涵養する。3, 4年次には、形成された自己効力感や自己有用感をベースとして、将来への展望や具体的な目標を持たせる。 ・チューター、ゼミ担当教員のきめ細かな指導援助は勿論のこと、教員間の情報共有や連携を密にして、学生への支援体制を強化する。 ・吉備プレーパークや子育て支援センターへのボランティア活動など、両学科の学生交流を図る取り組み深め、学部に対するアイデンティティ強化を図り、主体的、積極的な態度を涵養する。 3) 就職率の向上対策 ・入学当初より、就職への動機づけ・イメージ作りを行い、学習意欲の維持強化と自己能力感の醸成を図る。 ・キャリアサポートセンターと緊密に連携し、100%の就職率を目指す。 ・キャリア教育の一環としてSPI等を活用し、就職採用試験に対応できる能力を涵養する。 ・両学科に共通する就職情報を共有化し、就職率の向上を図るとともに、専門職者の養成に努力する。 4) 学力の向上対策 ・リメディアル学習による基礎学力(読解力や思考力、発表表現力等)の向上を図るとともに、自立的・積極的な学修態度・学修習慣を身につけさせ、教養・専門領域における学力の向上を図る(平均GPA2.5以上)。 ・両学科の各種資格・免許の取得を前提とした専門教育をインテンシブに実施する。

<p>教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。)</p> <p>募集力 (ブランド力)</p>	<p>施策</p>	<p>(R2)</p>	<p>◆ 施策1-4)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策1)の定員確保、施策2)の退学者対策については、最重点課題として取り組む。 ・ 施策4)の学力の向上対策については、各種資格・免許の取得を前提とした教育を重点的に実施する。 <p>◆ 新規施策</p> <p>5) ※外国人留学生と日本人学生の相互交流を深め、留学生の不安感の払拭・アイデンティティ形成を図る。</p>
		<p>(R3)</p>	<p>◆ 施策1-5)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策1)の定員確保、施策2)の退学者対策については、最重点課題として取り組む。 ・ 施策4)の学力の向上対策については、各種資格・免許の取得を前提とした教育を重点的に実施する。 <p>◆ 新規施策</p> <p>6) ※外国人留学生の教育支援体制を整備する。</p>
		<p>(R4)</p>	<p>◆ 施策1-6)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施策1)の定員確保、施策2)の退学者対策については、最重点課題として取り組む。 ・ 施策4)の学力の向上対策については、各種資格・免許の取得を前提とした教育を重点的に実施する。

研究力	中期目標	<p>1) 教員各個人の研究分野における主体的な研究活動を推進する。</p> <p>2) 所属学会における研究発表や学会誌等への論文投稿を推進する。</p> <p>3) 公的助成や各種研究助成団体等からの外部資金の獲得を推進する。</p>	
	施策	(R元)	<p>1) 研究活動の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教員の所属学会や研究会への参加を推進し、研究資質・能力の向上を図る。 各教員の所属学会における研究発表や学会誌、大学研究紀要等へ積極的な投稿を推進し、学会発表、研究論文、著書、訳書、研究報告書、作品等を、毎年次1件以上発表(公表)するよう努める。 <p>2) 外部資金の獲得について</p> <ul style="list-style-type: none"> 公的助成や各種研究助成団体等からの外部資金の獲得を推進し、文科省科学研究費には全教員の応募を目指す。
		(R2)	<p>◆ 施策1-2)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>3) ※科研費申請等による外部資金獲得件数を増やす。</p> <p>4) ※大学紀要・研究センター紀要への投稿を推進する。</p>
		(R3)	<p>◆ 施策1-4)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>5) ※学会発表・研究論文の公表(学会誌への投稿)を推進する。</p>
		(R4)	<p>◆ 施策1-5)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p>
地域連携力	中期目標	<p>1) 心理学科・子ども発達教育学科が取り組んでいる、地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)完了後における地域貢献事業を継続推進する。</p>	
	施策	(R元)	<p>1) 心理・発達総合研究センターにおける地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の乳幼児、児童、青年、成人を対象とした心理・発達にかかわる相談・援助等、「心のケア支援」活動を推進する。 <p>2) 子育てカレッジにおける地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域における子育て支援事業(親子と学生の交流事業、子育て相談・講座、吉備プレーパーク等)を推進する。
		(R2)	<p>◆ 施策1-2)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>3) ※両学科の取り組み成果を公表するとともに活動推進に努める。</p>
		(R3)	<p>◆ 施策1-3)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>4) ※地域訪問アウトリーチ型の地域貢献に努める。</p>
		(R4)	<p>◆ 施策1-4)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p>

ビジョン (キャッチフレーズ)		脳を知り、心を知り、心理学を楽しむ！ 心理学の基礎から臨床まで、オーソドックスな教育をベースに、一人ひとりの長所を伸ばし、将来の可能性を広げます。	
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 定員確保：学科定員の100%充足。 2) 退学者：在学者数の2.5%以下(3人以下)を目指す。 3) 学力向上： ①大学院進学、および公認心理師受験に向けた基礎学力の形成。 ②心理学検定受験の促進と、卒業までに受験者全員に1級以上を取得させる体制作り。 ③学部生の平均GPA2.5以上の達成。 ④今後増加することが予想される留学生に対する教育実践の改善。 4) 就職率：動機づけを高め100%を目指す。	
	施策	(R元)	1) 定員確保について ・高校向け情報の発信、学科ブログの充実等により、広報活動を積極的に行う。 ・高校での進路ガイダンスや出張講義に、全教員で積極的に関わる。 2) 退学者対策 ・特に1年次生への対応を強化する。具体的には、スポーツ大会や志知キャンパスへの日帰り研修(田植えor 収穫祭などへの参加)の実施など、屋内外での共同活動を促進し、大学生活への適応を促す。 ・成績不振者(特にGPA1以下の学生)への対策を検討・強化する。 ・退学率は5%以下を目指す。 3) 公認心理師養成に向けた対策 ・公認心理師に関する情報の収集と、受験対策としての大学院進学への方向づけを強化する。 ・学外実習の実施内容等についての見直しを行う。 4) 学力向上 ・1・2年次の内に、少なくとも心理学検定2級を取得させるための取組について検討する。より具体的には、学科の全学生受験させるシステムの検討を行う。 5) その他 ・秋学期入学生、留学生のための柔軟なカリキュラム運用を検討する。 ・学生への積極的関与のあり方を検討し、学修のみならず、進路・就職等についても、個別な指導・支援の実施に結びつける。とくに、進路選択に向けた支援を重視する。
		(R2)	◆ 施策1-5)の継続・推進。退学者は5%未満を目指す。 ・施策3) 国家資格対策として、上記施策を継続するとともに、卒業後の実務経験先の確保(あわせて、学生への就職斡旋)に向けた取り組みを開始する。卒業後の受験対策指導についての検討も開始する。 ・施策4) 学力向上に関しては、心理学検定1級取得への指導をさらに徹底し、ほぼ全学生が受験するように取り組むとともに、学生の個別指導の徹底を図る。その中で、自律的・積極的な学習態度・学習習慣を涵養を目指す。 ・留学生の学修に対して、一層の支援・指導を検討し実践する。
		(R3)	◆ 施策1-5)の継続・推進。前年度に続き、上記施策を、よりきめ細やかに、可能な限り、学生一人一人に応じた形で実施。 ・施策5)の進路選択に関して、就職の動機づけ・イメージ作りを一層強化する。
		(R4)	◆ 施策1-5)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ・施策1)と2)の定員の確保と退学者対策を最重点課題として取り組む。

ビジョン (キャッチフレーズ)		心を学び、教育課題に対応できる実践力のある教師、保育士を養成！ 教育課題の本質を見極めるための基盤となる心理の知識を身に付けるとともに実践的な講義を行い、教育課題に対応できる小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 学科定員100%の確保を目指す。 2) 退学者ゼロを目指す。 3) 教職対策講座の充実。公立幼稚園、保育園就職者を増やす。80%以上 4) 学力の向上(平均GPA2.5以上)を目指す。 5) 就職率100%を達成するとともに、専門職に付く学生を増やす。(80%)
	施策	1) 定員確保について ・ 学科教育の特色である「心を学び、教育課題へ対応できる実践力のある教員養成」を前面に出した広報活動に切り替える。 ・ オープンキャンパス、見学会の内容を学生とともに改善する。学生の意欲を喚起し、学生自身が「学科を創生する」という気持ちで取組ができるように工夫する。 講演会、シンポジウムを開き、大学の学びを「見える化」する。 2) 退学者ゼロを目指す。 1,2年次生は基礎学力の向上を図るとともに学生同士の友好・相互援助的な人間関係を構築できるように支援する。特に留学生についての合理的配慮を工夫する。 3) 教職対策講座の充実。公立幼稚園、保育園就職者を増やす ・ 入学当初より、専門職への動機づけ・イメージ作りを行い、学習意欲の維持強化と自己能力感の醸成を図る。 ・ 教員採用試験に関する情報収集と対策講座の充実を図る。個に対応した手厚い支援として小学校対策と公立幼稚園対策をコース別に行ない、希望者には早い段階から学修させる。 4) 学力の向上対策 ・ 自立的・積極的な学習態度・学修習慣を身につけさせ、教養・専門領域における学力の向上を図る(平均GPA2.5以上)。 ・ 新教育カリキュラムを導入し、実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。 5) 就職率100%を達成するとともに、専門職に付く学生を増やす。(80%) ・ キャリアサポートセンターと緊密に連携し、100%の就職率を目指す(保育・初等教育等専門職8割以上)
	(R元)	◆ 施策1-5)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ・ ※施策1)の定員確保については、最重点課題として取り組む。 ・ ※施策4)の新教育カリキュラムを導入し、保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。
	(R2)	◆ 施策1-5)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ・ ※施策1)の定員確保については、最重点課題として取り組む ・ ※施策4)の新教育カリキュラムによる保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。 ・ 地域に大学の知を広め、結果として子育て支援の地域力を高める。
(R3)	◆ 施策1-5)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。 ・ ※施策1)の定員確保については、最重点課題として取り組む ・ ※施策4)の新教育カリキュラムによる保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。 ・ 地域に大学の知を広め、結果として子育て支援の地域力を高める。	

<p>教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。)</p> <p>募集力 (ブランド力)</p>	<p>施策</p>	<p>(R4)</p>	<p>◆ 施策 1－5)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成とその維持強化に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ※施策1)の定員確保については、最重点課題として取り組む ・ ※施策4)の新教育カリキュラムによる保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。 ・ 地域に大学の知を広め、結果として子育て支援の地域力を高める。
<p>その他</p>	<p>中期目標</p>	<p>学科が地域貢献の一環として取り組む、各種「子育てカレッジ事業」への積極的参加を通じて、企画力や実践力を涵養し、地域における子育て支援力の涵養を図る。</p>	
	<p>施策</p>		

ビジョン (キャッチフレーズ)		農を基に食と地域の未来を拓く ～新たな挑戦～ 淡路島から始まる、あなたと地域の未来。ここにしかない農・食の学びで地域社会のリーダーを養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 本学部では、農業生産、食品の開発・加工、流通全般にわたる知識、技術、行動力、創造力を身につけ、我が国や国際社会に貢献できる有為な人材を養成することを目的としている。本中期目標期間においてもこの目的を達成するための努力を継続していく。 2) 平成25年度の本学部開設以来継続してきた研究活動が平成30年度の醸造学科開設に繋がっている。今後は本学部が持つブランド力を社会に認知させていく取組を行う。また、本学部においては、研究力が教育力に直結していることを全教員が認識していることから研究活動における質向上を通じて教育力の向上に努めていく。 3) 研究力、教育力に裏づけされたブランド力を学生募集に直結させる取り組みを充実させていく。近畿圏域においてブランドが確立された他大学には無い特色をより鮮明にし淡路島全体が本学のフィールドである事を産学官の連携の下に推進する。 4) 受託研究、科研費など外部資金の獲得を通じ施設設備の質向上を図り他大学との競争力を維持・向上させていく。 5) 建学の理念を踏まえ、教職員一同が一体化した教育活動(学習指導、研究指導、生活指導)を実践する。
	施策	(R元) <ol style="list-style-type: none"> 1) 本学および本学部の人材養成の理念に沿った教育が行われているか否かを、学部教員会議(全専任教員)で論議する。行われていない場合には直ちに対策を講ずる。学生による授業評価もある程度参考にする。 2) ブランド力のアップには、教育、研究において他大学農学部との優位性を明確にすることが肝要である。きわめて難しい課題であるが、これまでの研究活動を通じた成果物を商品として社会に出し、その評価を更なる改善につなげていく。 3) 古来より御食国として認知されてきた淡路島のブランド力を本学のブランドとして活用していく。淡路島が丸ごと本学のキャンパスでありこのフィールドを学生の教育に繋げていく。 4) 平成29年度より圃場並びに植物工場群の整備、醸造棟の新築など設備面で他大学と対抗出来る目処が立った。しかし、競合する他大学との研究・教育における競争力を維持していくために受託研究の受け入れ、農水省など文部科学省以外の補助金の獲得に傾注し、これを教育にフィードバックしていく。 5) 担任(チューター)以外の学生にも気軽に話しかけるなど、教員と学生の距離を縮める努力をし、退学者が出ないように、学生にとって満足度の高い学部となるよう努力する。また、「さなぶり」や「収穫祭」を開催し、教員、学生、事務職員間の相互理解を図るとともに、他学部職員、学生との交流を深める。
	(R2)	◆ 施策 1-5)の継続・推進
	(R3)	◆ 施策 1-5)の継続・推進
	(R4)	◆ 施策 1-5)の継続・推進

研究力	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 1) 農業技術分野(植物育種学、栽培学、植物病理学)、食品化学・加工学分野、農業経済・経営学分野、地域創成学分野それぞれにおける研究の質の向上を図る。 2) 本学部全体として、「近畿大学養殖マグロ研究」に匹敵する、あるいは近づけるブランド研究を模索する。 3) 大学教員は、成果の公表なくして、研究を語ることはできない。このため、論文公表を推進する。また、学術協会活動を積極的に行う。 4) 科研費や科研費以外の外部資金の獲得を積極的に行う。 5) 本学部発淡路島特産品の開発研究を継続して行う。 	
	施策	(R元)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 各教員の研究内容を把握する「学術交流会」を年度末に開催する。国内外の学会出席、各種講演会への出席等、発表の有無に関わらず、研究の立案と実施に関わる情報収集を積極的に推進する。 2) 教員会議で本学部の名声を高めるべく、ブランド研究実施の可能性について論議する。 3) 1年1報の論文公表を義務化し、自然科学系教員にあつては可能な限りインパクトファクターの高い国際誌での発表を目指す。また、学術協会活動を積極的に行う。 4) 科研費の申請を積極的に行う。周知のように、科研費の取得には、過去の公表論文の数と質、さらに申請内容の質と実現性に関する審査が行われるため、積極的な論文公表が必要である。他の競争的資金についても学会や関連研究機関、政府のHP等を通じて情報を収集する。民間企業との共同研究並びに受託研究を積極的に推進する。 5) 平成26年度より淡路島原産ナルトオレンジの保存と利用に関する分野横断型研究を実施している。平成28年度も、引き続き、遺伝資源の保存、加工品の開発等の分野横断型研究を実施する。
		(R2)	◆ 施策 1-5)の継続・推進
		(R3)	◆ 施策 1-5)の継続・推進
		(R4)	◆ 施策 1-5)の継続・推進

地域連携力	中期目標	<p>1) 醸造学科の開設並びに教員の研究分野構成の変化に合わせ南あわじ市と締結した8つの研究会(地域特産農作物栽培・育種研究会、植物クリニック研究会、機能的食品開発研究会、農業・農村6次産業化研究会、農作物・食品輸出拡大研究会、森林資源保全研究会、あわじ人口減少問題研究会、地域ブランド食品創作研究会)の分野見直しを行う。</p> <p>2) 兵庫県、南あわじ市、洲本市、淡路市との連携活動を実施する。</p> <p>3) 市民公開講座、高校生向けシンポジウム、地元小・中・高校への出前授業などを積極的に行う。</p>
	施策	<p>1) 南あわじ市と締結した8つの研究会を構成する分野(地域特産農作物栽培・育種研究会、植物クリニック研究会、機能的食品開発研究会、農業・農村6次産業化研究会、農作物・食品輸出拡大研究会、森林資源保全研究会、あわじ人口減少問題研究会、地域ブランド食品創作研究会)を農学部として見直す。</p> <p>2) 兵庫県と連携して淡路未来島構想および食と農に関するセミナー等における助言、活動を行う。</p> <p>3) 地元小・中学校および連携高校への出前授業、実験指導を行うと共に地元小中学校との連携事業に取り組む。平成30年度より実施している地元小学校との「さなぶり」の規模拡大と共に地元中学生のインターンシップ受け入れの内容充実を図る。</p>
	(R2)	◆ 施策 1-3)の継続・推進
	(R3)	◆ 施策 1-3)の継続・推進
	(R4)	◆ 施策 1-3)の継続・推進

ビジョン (キャッチフレーズ)		農と食を基に地域の未来を拓く ～新たな挑戦～ 淡路島から始まる、あなたと地域の未来。ここにしかない農・食の学びで地域社会のリーダーを養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 本学部では、農業生産、食品の開発・加工、流通全般にわたる知識、技術、行動力、創造力を身につけ、我が国や国際社会に貢献できる有為な人材を養成することを目的としている。本中期目標期間においてもこの目的を達成するための努力を継続していく。 2) 平成25年度の本学部開設以来継続してきた研究・教育活動において得られた成果を本学科が持つブランド力としてを社会に認知させていく取組を行う。また、本学部においては、研究力が教育力に直結していることを全教員が認識していることから研究活動における質向上を通じて教育力の向上に努めていく。 3) 研究力、教育力に裏づけされたブランド力を学生募集に直結させる取り組みを充実させていく。近畿圏域においてブランドが確立された他大学には無い特色をより鮮明にし淡路島全体が本学のフィールドである事を産学官の連携の下に推進する。 4) 建学の理念を踏まえ、教職員一同が一体化した教育活動(学習指導、研究指導、生活指導)を実践する。
	施策	(R元) 1) 本学および本学部の人材養成の理念に沿った教育が行われているか否かを、学科教員会議で論議する。行われていない場合には直ちに対策を講ずる。学生による授業評価もある程度参考にする。 2) ブランド力のアップには、教育、研究において他大学農学部との優位性を明確にすることが肝要である。きわめて難しい課題であるが、これまでの研究活動を通じた成果物を商品として社会に出し、その評価を更なる改善につなげていく。 3) 古来より御食国として認知されてきた淡路島のブランド力を本学のブランドとして活用していく。淡路島が丸ごと本学のキャンパスでありこのフィールドを学生の教育に繋げていく。 4) 担任(チューター)以外の学生にも気軽に話しかけるなど、教員と学生の距離を縮める努力をし、退学者が出ないように、学生にとって満足度の高い学部となるよう努力する。また、「さなぶり」や「収穫祭」を開催し、教員、学生、事務職員間の相互理解を図るとともに、他学部職員、学生との交流を深める。
	(R2)	◆ 施策 1-4)の継続・推進
	(R3)	◆ 施策 1-4)の継続・推進
	(R4)	◆ 施策 1-4)の継続・推進

ビジョン (キャッチフレーズ)		農をもとに醸造分野を拓く 新たな醸造関連食品を創出できる人材の育成、日本及び国際社会、特に地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。		
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 醸造学、食品化学を基盤とした応用開発力を身につける(学力の向上)。 2) 学科定員(40名)の達成を目指す。 3) 退学者、除籍者数ゼロを目指す。 4) 就職率100%達成。		
	施策	(R元)	1) 教員それぞれの専門分野を活かし、醸造学、微生物発酵学、食品加工学分野における知識、技術の習得を目指し、学生自ら考え、新規商品開発が提案できるような実力をつけることを目指す。 2) 醸造学科で実施している研究内容、学生の活動を新聞、ブログを通して積極的に外部へアピールし、吉備国際大学・醸造学科の知名度向上に努めるとともに、本年度より醸造学科独自のパンフレットを制作し、高等学校に配布する。さらに高大連携活動(出張授業、校内ガイダンスなど)に教員を積極的に派遣し、醸造学科で学べること、本学の魅力を紹介して募集力向上を目指す。 3) 醸造学科教員全員が学生を見守り、授業欠席者への指導、相談を積極的に行う。また定期的に学生同士、学生と教員の交流を実施し、お互いを知ること、密度の高い指導ができるよう努力する。 4) 学生の希望、適正を判断し、就職活動へのきめ細かな指導を行う。また卒論、研究活動においても積極的に外部企業と連携することにより、学生が早い段階で進路を考えるきっかけを作る。	
		(R2)	施策 1-4)の継続・推進 ・施策3)授業欠席者への積極的な支援を行う。	
		(R3)	施策 1-4)の継続・推進 ・施策4) 本学科1期生が最終学年(4年生)になるトシであり、就職活動への積極的な支援を行い、就職率100%を目指す。	
		(R4)		

ビジョン (キャッチフレーズ)		日本の文化・歴史に関する知識と英語力を身につけ、 世界へ飛翔しよう！ ジャパンスタディ・英語コミュニケーション力・海外留学をベースに一人ひとりの力を開発し、グローバル社会で活躍できる人材を養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	新カリキュラムの定着を図り、その不具合を調整しつつ、定員充足を目指す。 1) 学生の能力を的確に把握し、最善の努力で最大の能力を引き出し引き伸ばす。 2) 自ら動く学生として積極、果敢な行動力を引き出し引き伸ばす。 ★外国学科として独自の文化を創出する。
	施策	学生の英語力、英語以外の学力を確認し、適切な教育方法を見出し改善する 1) 外部テスト(年2回)、学内模試(年3回)の実施。 2) 英語による課外活動の実施。 3) 日本人として知っておいてほしいことを体験的に学ぶ場を設ける。 4) アクティブラーニングを取り入れた授業の推進、教育方法の検討。各授業へのタブレット端末の導入を検討する。 ↓ 5) 学生の能力にあった教育方法の開発。 6) インターンシップの充実など、就職対策の検討・実施。 7) 英語学習カウンセリングを行い、自学自習する学生の個性にあった適切な指導を行う。 8) 英語以外の学習カウンセリングを行い、自学自習する学生の個性にあった適切な指導を行う。 定員(50名)の確保 9) オープン・キャンパスなどにおける在校生の活用、高校の校内オリエンテーションへの教員派遣など。
	(R元)	
	(R2)	◆ 施策1-9)の継続・推進 ・海外研修団との交流活動、ボランティア活動、部活、サークル活動などを支援・推進し、自らの動く学生を支援する。 ・建学の理念に則った、学科ならではの体験と満足を学生に提供できるように常に改善に努める。
	(R3)	◆ 施策1-9)の継続・推進
(R4)	◆ 施策1-9)の継続・推進 10) R1カリキュラムより導入した日本語教員養成課程に関し、その評価と見直し方針を策定する。	

研究力	中期目標	1) 学生の能力に適合した効果的な教育方法を研究開発し、改善に努める。 2) 各教員が個性を活かした研究成果を追究して学生の探求心を引き出し、引き伸ばす。	
	施策	(R元)	1) 教員各自が授業改善に取り組む。 2) 研究する姿勢を見せる教育に向けて、教員の研究を学生に知らしめる。
		(R2)	◆ 施策1-2)の継続・推進
		(R3)	◆ 施策1-2)の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 前2年の成果を踏まえて教材開発。／共同研究に着手する。
		(R4)	◆ 施策1-3)の継続・推進
地域連携力	中期目標	1) 地域に対する学生の関心を高め、地域を知り、地域に働きかける力を引き出す。 2) 地域の人々と連携して行動する力を身に着ける。	
	施策	(R元)	1) 地域と人を知るために見学、インタビュー等の機会を設ける。 2) 地域ボランティア活動の奨励。
		(R2)	◆ 施策1-2)の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 地域の魅力や外国学科の活動を広報する力を身に着ける。
		(R3)	◆ 施策1-3)の継続・推進
		(R4)	◆ 施策1-3)の継続・推進
その他	中期目標	中期計画期間中は、新カリキュラムの施行並びに定着を図ると共に、課題・問題点の発見と改善とに注力する。	
	施策		

ビジョン (キャッチフレーズ)		地域で、アニメの夢を実現しよう！ アニメーションの制作・文化・プロデュースをトータルに学び、映像文化の新たな担い手を養成します。		
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) アニメーションの制作・文化・プロデュースを、トータルに、しかも質の高いレベルで学べるような学科の構築を目指す。 2) 定員の100パーセント確保を目指す。 3) 就職率100パーセントを目指す。 4) アニメーションの世界で、国際的に活躍できる人材を育てる。 5) 退学者ゼロを目指す。 6) 県内のアニメコースを持つ高校との連携活動を強化。		
	施策	(R元)	1) 新カリキュラムがスタート2年目を迎えるので、良い面だけでなく不都合な部分も含め進捗状況を丁寧に確認することが重要であろう。入学者が増加したことにより、全教員が否応なく専門ゼミ担当者になる必要があるため、各自の非専門性の克服が求められる。 2) 現在ようやく定員確保の可能性が見えてきたところだが、この傾向を定着させることが重要である。そのためには、授業内容の充実とメディアへの露出が重要である。 3) まずは、日本人学生の就職率100%を目指す。外国人留学生については、日本語力の向上を図りながら、キャリア意識の醸成を図る。 4) 留学生の母国での就職を様々な方法で支援する。 5) 退学者ゼロを目指す。 6) これまでの連携活動に、さらに地元の城南高校が加わる。	
		(R2)	◆ 施策 1-6)の継続・推進。	
		(R3)	◆ 施策 1-6)の継続・推進。 ◆ 新規施策 7) 現行のカリキュラムが実施4年目を迎えるので、時代状況に応じた新たなカリキュラムを考える必要がある。	
		(R4)	◆ 施策 1-6)の継続・推進。 ◆ 新規施策 7) 新しいカリキュラムの実施。	

研究力	中期目標		1) 科研費の獲得に努める。 2) 留学生の母国での就職を足掛かりに、アニメーションの教育・研究・制作に関する国際的なネットワークの構築を目指す。 3) 地域と連携した活動の中から、研究課題を見出す。
	施策	(R元)	1) 複数名の科研費獲得者をめざす。 2) 留学生の母国での就職を足掛かりに、アニメーションの教育・研究・制作に関する国際的なネットワークの構築を目指す。 3) 地域と連携した活動の中から、学科独自の研究課題を見出す。 4) ゲームジャムに関連したシンポジウムを開催(毎年開催の可能性については未定)。
		(R2)	◆ 施策 1-3)の継続・推進
		(R3)	◆ 施策 1-3)の継続・推進
		(R4)	◆ 施策 1-3)の継続・推進
地域連携力	中期目標		1) 高梁市をはじめ近隣の市町村との様々な連携事業を、行政・企業・市民の各レベルにおいて継続・拡大する。
	施策	(R元)	1) 備中高梁まちづくり研究所との協働を図る。 2) クリエイティブシティ高梁推進協議会と協力して、ゲームジャム大会等を継続して開催。
		(R2)	◆ 施策 1-2)の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 改めて、「吉備川上ふれあい漫画美術館」との協働を図り、イベントを開催。
		(R3)	◆ 施策 1-3)の継続・推進
		(R4)	◆ 施策 1-3)の継続・推進

ビジョン (キャッチフレーズ)		自己の可能性を信じ、チャレンジするあなたへ！ 「仕事・家庭」と「学び」を両立させ、子育てのスペシャリストをめざす！ 心理学をベースとした保育・教育・児童家庭福祉の学びで、子どもの心理・子育ての心理に精通した子育てのスペシャリスト(保育者・教育者)を養成します。	
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 学科定員(1年次50名、2年次編入30名、3年次編入30名)100%の確保を目指す。 2) 退学率ゼロを目指す。	
	施策	(R元)	1) 定員確保について ・生活や仕事をキープしながら保育や初等教育を学び、「大学卒業資格」や「保育士資格」、「教員免許の取得」を目指すことができる通信教育の魅力、ならびに在学生・卒業生の体験情報等を各種広報によりアピールする。 ・保育所(無認可も含む)、幼稚園、認定こども園、小学校の保育、初等教育機関、通信制高校等へインテンシブに広報活動を展開する。 ・学修環境の利便性を図るため、通信教育における潜在的ニーズが大きい大都市周辺(広島・関西地域等)におけるスクーリング会場(常設)の設置を推進する。 2) 退学者対策 ・個々の学生の学修環境や状態を十分把握し、無理のない学修計画づくりのアドバイスやきめ細かい支援を行うために、教員の学年担当制の導入を推進する。 ・学生としてのアイデンティティを持つことができるよう、スクーリング時には、参加学生達が情報交換や交流を行うことができるような時間の設定や場所の設置を推進する。 ・科目担当教員がWEB学修支援システムを有効に使用し、学生の学修状況の把握と支援に努めることにより、学習意欲の衰退を防ぐ。 3) 新教育カリキュラムの検討 ・学科の教育カリキュラム(科目構成、年次配当等)の見直しを行い、保育・教育実践力の強化を目指す。
		(R2)	◆ 施策1-3)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成と維持強化に努める。 ・施策1)の定員確保、施策2)の退学者対策については、最重点課題として取り組む。 ・施策3)の新教育カリキュラムを導入し、保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。 ◆ 新規施策 4) ※定員確保に向け、企業等と教育提携を締結するなど、入学対象の拡大を図る。
		(R3)	◆ 施策1-4)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成と維持強化に努める。 ・施策1)の定員確保、施策2)の退学者対策については、最重点課題として取り組む。 ・施策3)の新教育カリキュラムを導入し、保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。
		(R4)	◆ 施策1-4)の継続・推進。前年度に引き続き、目標の達成と維持強化に努める。 ・施策1)の定員確保、施策2)の退学者対策については、最重点課題として取り組む。 ・施策3)の新教育カリキュラムを導入し、保育・教育実践力の強化ならびに教員採用試験合格率の向上を目指す。

大 学 院

社会学研究科

ビジョン (キャッチフレーズ)		現代社会の課題に知的チャレンジで立ち向かう！ 社会の変革をとらえ、時代が要請する課題に対して知的チャレンジを 続けてグローバル社会で活躍する人材を養成する。	
教育力 (学修成果の可視化・ 学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 比較社会学、地域社会学、産業社会学、スポーツ社会学の分野において魅力 ある多様な専門科目を提供する。 2) 自ら成長し、グローバル社会と地域社会に社会貢献ができる人材を養成する。 3) 入学者定員100%を目指す。	
	施策	(R元)	1) 三つのポリシーに合わせて、社会のニーズに応える教育と院生自身の満足度が 高い学習体制、研究指導体制を構築する。 2) 入学者定員100%を目指す。全教員が広報活動に力を入れる。 3) 全教員の懇切丁寧な指導を通じて院生の悩みを早期に把握し、退学者ゼロを 目指す。 4) きめ細かな論文指導と留学生への日本語教育に力を入れる。 5) 社会学研究科論叢に在学生、OB、OGがR元年度からR4年度の間に4編以上の 論文を投稿する。
	(R2)	◆ 施策1-5の継続・推進	
	(R3)	◆ 施策1-5の継続・推進	
	(R4)	◆ 施策1-5の継続・推進	
研究力	中期目標	1) 教員は学会に参加し、新しい情報を入手・発信する。 2) 地域、日本、世界のニーズに対応する研究を推進する。 3) 学術研究助成金、科学研究費補助金の申請・採択件数の向上を目指す。	
	施策	(R元)	1) 教員は年間1回以上、学会に参加し、新しい情報を入手・発信する。 2) 学術研究助成金、科研の申請・採択件数向上を目指す。 3) 研究成果を教育に反映し、研究と教育の融合を促進する。 4) 全教員がR1年度からR4年度の間に2編以上の論文を投稿する。
	(R2)	◆ 施策1-4の継続・推進	
	(R3)	◆ 施策1-4の継続・推進	
	(R4)	◆ 施策1-4の継続・推進	

ビジョン (キャッチフレーズ)		保健科学の専門領域の疑問を研究で解く！ 優れた研究環境と細やかな研究指導体制によって、保健科学領域をリードする教育研究者と専門職者を養成します。	
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 博士(後期)課程・修士課程の入学者の増加をはかる。 2) きめ細やかな研究指導体制の充実をはかる。 3) 社会人も学べる研究環境の充実をはかる。 4) 学部と大学院の一貫教育を行う。 5) 看護分野では教育専修免許取得のための門戸を広げる。 6) 教育プログラムの強化をはかる。 ↓ 保健科学の専門分野での新たなる研究へのチャレンジ	
	(R元)	1) 保健科学専門領域での研究初学者の発掘(目標1) 大学院博士(後期)課程の定員3名、修士課程の定員6名の確保／大学院進学 の入学相談会の開催／臨床実践者との共同研究の推進 2) 保健科学研究領域での指導体制の充実(目標2・3・4・5) 主指導教員1名、副指導教員2名の指導体制での研究指導の充実／社会人が履修しやすく学習環境の充実 3) 保健科学領域の教育システムの洗練化(目標4・5・6) 学部生の大学院一貫教育の充実／教員専修免許取得のための履修指導体制の強化(看護領域)／指定規則改正に向けてのカリキュラムの検討(理学・作業領域)	
	(R2)	◆ 施策1-3)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化(施策1・2・3) ・本学の地域性を生かした共同研究の推進 ◆ 新規施策 4) ホームページなどで研究科の魅力を積極的に発信する。	
	(R3)	◆ 施策1-4)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化(施策1・2・3) ◆ 新規施策 5) 定員の100%充足	
	(R4)	◆ 施策1-5)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化(施策1・2・3) ◆ 新規施策 6) 4年間の中期目標達成度を総括し、次期目標計画書を作成	

研究力	中期目標	1) 教員は自由且つ自律的な研究活動を推進する。 2) 地域、日本、世界のニーズに対応する研究を推進する。 3) 学術研究助成金、科学研究費補助金の申請・採択件数の向上。	
	施策	(R元)	1) 保健福祉研究所の見学会を1回/年実施 2) 保健福祉研究所と連携し、講演会を1回/年実施 3) 保健科学研究科のFD研修会を1回/年実施
		(R2)	◆ 施策1-3)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化
		(R3)	◆ 施策1-3)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化
		(R4)	◆ 施策1-3)の継続・推進 ・前年度の結果分析に基づき、対策を精緻化 ◆ 新規施策 4) 4年間の中期目標達成度を総括し、次期目標計画書を作成

ビジョン (キャッチフレーズ)		認識の探求と思いやりー時代を超えた究極の理想に迫る！ 客観的かつ論理的な心理学的方法論に基づいて研究と支援のできる 心理専門家を養成します。		
教育力 (学修成果の可視化・ 学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	<教育力> (博士(前期)課程) 1) 心理学コース、公認心理師コースとも、修士論文の水準向上に努めます。 2) 公認心理師士の合格率100%を目指します。 3) 研究過程を通して、その成果を各種分野(例えば、教育、医療、人間工学、福祉、 産業・組織・人事・管理等)に応用できる心理学の専門家を養成します。 (博士(後期)課程) 4) 心理学の研究者として、自立的な研究活動を行うことのできる能力と学識をもった 専門家を育成します。 5) <募集力> (修士課程)及び(博士(後期)課程)ともに、定員(修士15名、博士2名)を満たす ように、また志願者や入学者が増加するように努めます。		
	施策	(R元)	1) 「心理学検定」の受験の勧め、検定一級の獲得者の増大を目指します。 2) 研究指導体制における副指導の役割を、従前よりも明確にし、増大させます。 心理学的研究技法が活かせる職域を探索します。 3) 院生に対しては、懇切丁寧に粘り強く指導を行っていきます。 4) 学内にあっては、留学生への大学院進学への奨励、及び心理学の知見・方法の 面白みの実感を高めるよう努めます。	
		(R2)	◆ 施策 1-5) の継続・推進 ◆ 新規施策 6) 入試広報室と緊密に連絡を取り合い、大学院説明会の充実に努めます。	
		(R3)	◆ 施策 1-6) の継続・推進 ◆ 新規施策 7) 本学以外でもかなりの数の修了生を輩出している九州保健福祉大学等、情報交換 をする組織づくりを模索します。	
		(R4)	◆ 施策 1-7) の継続・推進	

研究力	中期目標	<p>1) 大学院担当教員が、自律的かつ闊達な研究意欲を増進するよう努めます。</p> <p>2) 学外(国内外)の研究機関との共同研究を推進します。</p>	
	施策	(R元)	<p>1) 大学院担当教員は、年間に1回以上の学会発表、1編の論文作成をノルマとして課します。</p> <p>2) 学外(国内外)の研究機関との共同研究を進め、学会発表・論文作成に努めます。</p>
		(R2)	<p>◆ 施策 1-2) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>3) 学術研究助成金の獲得に努めます。</p>
		(R3)	<p>◆ 施策 1-3) の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>4) 学外の研究機関との共同研究の成果を報告書の形でまとめます。</p>
		(R4)	<p>◆ 施策 1-4) の継続・推進</p>

ビジョン (キャッチフレーズ)		研究力の向上を通じて未来を拓く ～新たな挑戦～ 淡路島に立地する、本研究科でしか出来ない地域課題の研究活動を通じた地方創生への挑戦		
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 本研究科は、農業生産、食品の開発・加工、流通全般にわたる知識、技術、行動力、創造力を身につけることを通じて、地域創成の一翼を担うリーダー養成を目的としている。本中期目標期間においては、この目的を達成するための研究活動の強化に取り組んでいく。 2) 博士(後期)課程の設置に伴う研究活動への支援向上と設備の充実へ取り組む。 3) 定員充足率の向上を図る。		
	施策	(R元)	1) 南あわじ市が直面する課題について、行政、商工会、市民と共同で解決策を模索する。フィールドと研究活動の直結を図るために専任教員がこれまで培ってきた知見を積極的に活動する。 2) 文部科学省以外の補助金、企業との共同研究、受託研究などを通じて外部資金の獲得を図り在籍学生の研究活動の充実と共に施設設備などの研究環境の整備に取り組む。 3) 現在、博士(前期)課程に在籍する学生は全員内部進学者であることから外部からの進学者の募集活動に努める。また、博士(後期)課程については、本研究科専任教員の業績を積極的に外部へ発信することで定員の充足を図る。	
		(R2)	◆ 施策 1-3) の継続・推進	
		(R3)	◆ 施策 1-3) の継続・推進	
		(R4)	◆ 施策 1-3) の継続・推進	

研究力	中期目標	<p>1) 成果の公表なくして研究を語ることはできない。このため、論文公表を推進する。また、学術協会活動を積極的に行う。</p> <p>2) 科研費や科研費以外の外部資金の獲得を積極的に行う。</p>	
	施策	(R元)	<p>1) 各教員の研究内容を把握する「学術交流会」を年度末に開催する。国内外の学会出席、各種講演会への出席等、発表の有無に関わらず、研究の立案と実施に関わる情報収集を積極的に推進する。1年1報の論文公表を義務化し、自然科学系教員にあっては可能な限りインパクトファクターの高い国際誌での発表を目指す。また、学術協会活動を積極的に行う。</p> <p>2) 科研費の申請を積極的に行う。周知のように、科研費の取得には、過去の公表論文の数と質、さらに申請内容の質と実現性に関する審査が行われるため、積極的な論文公表が必要である。他の競争的資金についても学会や関連研究機関、政府のHP等を通じて情報を収集する。民間企業との共同研究並びに受託研究を積極的に推進する。</p>
		(R2)	◆ 施策 1-2) の継続・推進
		(R3)	◆ 施策 1-2) の継続・推進
		(R4)	◆ 施策 1-2) の継続・推進

(通信制) 社会福祉学研究科 修士課程

ビジョン (キャッチフレーズ)		福祉の学びで希望社会への道を拓く！ 福祉関連領域での現場経験を活かして理論、研究法、専門的知見を学び、経験知と科学的論拠によって課題解決に取り組む、福祉・ケアのリーダーを養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。)	中期目標	1) 院生への研究指導のグレードアップ
	施策 (R元)	1) 在学生の修了にむけての学修サポートの充実
研究力	中期目標	1) 学会等での研究発表の奨励 2) 外部競争的研究資金(科研費およびその他の研究助成)への申請の定着・獲得 3) 九州保健福祉大学(通信制)連合大学院との共同編集・査読付き研究誌『最新社会福祉学研究』刊行
	施策 (R元)	1) 教員の学会等研究発表・院生の参加/発表の活性化 2) 科研費等の外部資金獲得の奨励・申請時の教員間の相互サポート 3) 査読付研究誌の編集への協力

(通信制) 連合国際協力研究科 修士課程

ビジョン (キャッチフレーズ)		国際協力の探求－21世紀国際社会の多様な課題解決のために！ 一人ひとりの問題意識を大切にした教育研究を通じて、国際社会の近未来を担う高度国際協力人材を養成します。		
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 入学者定員充足率100%: 入学者7名(定員7名)を目標 2) 広報の充実 従来の広報に加えて、JOCA(青年海外協力協会)のSNSなど広報媒体への掲載(青年海外協力隊のOB/OG約2万人対象)、AMDAなどNGO関係団体との連携、卒業生ネットワークのロコミの活用 3) 魅力ある教育研究体制の確立 研究指導体制の充実(質の向上の取組みを含む)、学生の自主勉強会開催支援(教員の参加)、開発途上国の現地調査の支援、学外セミナーなどの活用		
	施策	(R元)	1) 入学者7名達成 2) JOCA広報媒体の活用継続、AMDAへの働きかけ、卒業生への協力依頼 3) 研究指導体制の課題の整理 4) 自主勉強会への教員派遣	
		(R2)	◆ 施策 1-4)の継続・推進 施策3) 研究指導体制の課題整理に基づく改善案の検討	
		(R3)	◆ 施策 1-4)の継続・推進 施策3) 研究指導体制の改善案の試行	
		(R4)	◆ 施策 1-4)の継続・推進 施策3) 研究指導体制の改善案試行の評価	
研究力	中期目標	1) 科研費などの外部資金の獲得 2) 国際開発/協力に関連する学会への参加数の増加		
	施策	(R元)	1) 科研費申請 2) 学生への学会の参加奨励	
		(R2)	◆ 施策1-2)の継続・推進	
		(R3)	◆ 施策1-2)の継続・推進	
		(R4)	◆ 施策1-2)の継続・推進	
その他	中期目標	同窓会組織の拡充:修了生のフォローを通じた修了生の満足度向上、研究科ネットワークの強化		
	施策	同窓会総会への協力・支援、外部有識者を招いたセミナーなどの企画・開催、その他活動への教員の積極的参加		

(通信制) 心理学研究科 博士(後期)課程

ビジョン (キャッチフレーズ)		日本唯一。通信制大学院で博士(心理学)の学位取得！ 客観的かつ科学的な方法論に基づき、意識・行動を対象とした研究活動を自立的に行うことのできる能力と深い学識をもった専門家を養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	<教育力> 1) 心理学の研究者として、自立的な研究活動を行うことのできる能力と学識をもった専門家を育成します。 <募集力> 2) (博士(後期)課程)の定員(3名)を満たすように、また志願者や入学者が増加するように努めます。
	施策	(R元) <ol style="list-style-type: none"> 1) 志願者の研究計画を精査し、3年間を期限として博士の学位取得水準に達するか否かを決定します。 2) 博士課程1、2年次生に対しては、懇切丁寧に、粘り強く指導を行います。 3) 博士課程3年次生に対しては、博士(心理学)の学位が取得できるよう、担当教員は最大限の努力をします。 4) 入試広報室と緊密に連絡を取り合い、大学院説明会の充実に努めます。
	(R2)	◆ 施策 1-4) の継続・推進
	(R3)	◆ 施策 1-4) の継続・推進
	(R4)	◆ 施策 1-4) の継続・推進・総括
研究力	中期目標	1) 大学院担当教員が、自律的かつ闊達な研究意欲を増進するよう努めます。 2) 国際大学の心理学研究科として、国内外の研究室と共同研究を推進します。
	施策	(R元) <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学院担当教員は、年間に1回以上の学会発表、1編の論文作成をノルマとして課します。 2) 通信・博士(後期)課程担当者は、国内外の研究者との共同研究を模索・推進します。
	(R2)	◆ 施策 1-2) の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 学術研究助成金の獲得に努めます。
	(R3)	◆ 施策 1-3) の継続・推進 ◆ 新規施策 4) 国内外の研究機関との共同研究を進めます。
	(R4)	◆ 施策 1-4) の継続・推進と総括

ビジョン (キャッチフレーズ)		リサーチマインド&メソッド 臨床における疑問を研究で解く！ 臨床実践や業務と両立できる全国唯一の通信制大学院として、高度な臨床研究能力を持つ理学療法士を養成します。		
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	1) 実際の仕事と大学院の両立を支援する 2) 臨床・教育現場での疑問を解決するための研究活動の支援 3) メールだけでなく、無料電話やテレビ電話でのきめ細かい研究指導 4) 通学制大学院と協同した教員の教育力向上 5) 全国から大学院生を募集するための理学療法学関連の学会誌、商業誌への広告 6) より密で高度な研究指導のための質の高い研究指導体制の確立 7) 教育プログラムの強化をはかる。 ↓ 通信制のメリットを最大限に生かす 仕事と両立した研究活動を最大限支援する		
	施策	(R元)	1) 退学者ゼロに向けた大学院生サポート体制の確立(目標1・2) 入学後からの履修窓口教員配置/複数教員指導体制/指導環境整備 2) 仕事と両立した研究活動の支援(目標2・3・4) インターネットを利用したテレビ会議による遠隔指導体制の確立/大学院の研究機器貸与/統計解析ソフトの購入/教員の教育力向上/大学院終了後の論文投稿支援 3) 募集力強化に向けたの広告活動(目標5) 理学療法学関連の学会誌、商業誌への年2回以上の広告/広告内容の洗練化/卒業生への呼びかけ 4) 指定規則改正にむけてのカリキュラムの検討	
		(R2)	◆ 施策 1-4)の継続・推進 ・ 施策2) 大学院生のより高いレベルの研究活動を保証するための教員のFD活動の推進。 施策3) 通信制大学院のメリットを最大限広告し、卒業生の投稿実績もアピール ◆ 新規施策 5) 質の高い研究指導体制の確立(目標6) 研究指導体制及び入学定員充足状況の改善を図るため、定員等も含め関係部署等と検討・協議を行う。	
		(R3)	◆ 施策 1-5)の継続・推進 ◆ 新規施策 6) 定員の100%充足	
(R4)	◆ 施策 1-6)の継続・推進 ◆ 新規施策 7) 4年間の中期目標達成度を総括し、次期目標計画書を作成			

研究力	中期目標	<p>理学療法学専攻においては全教員が大学院修士過程の研究指導の格付けを得ているため、教員自身の研究力の研鑽、外部資金獲得による研究環境の向上が大学院生への指導の質の向上につながる。そのことを念頭に以下のことを目標とする。</p> <p>1) 教員全員の科研費への応募、採択率の向上 2) 教員全員の積極的な学術誌への論文投稿</p>	
	施策	(R元)	<p>1) 科研費への全教員の応募(目標1) 大学全体と共同して採択率向上に向けた研修活動/各教員の採択結果の分析・改善活動</p> <p>2) 教員による学術誌への積極的な投稿(目標2) 研究力向上/大学院生との共同研究/大学院の知名度向上</p>
		(R2)	◆ 施策 1-2)の継続・推進
		(R3)	◆ 施策 1-2)の継続・推進
		(R4)	<p>◆ 施策 1-2)の継続・推進</p> <p>◆ 新規施策</p> <p>3) 4年間の中期目標達成度を総括し、次期目標計画書を作成</p>

ビジョン (キャッチフレーズ)		理論に基づいた作業療法実践！ 臨床実践や業務と両立できる通信制大学院教育を提供し、指導的役割を担う高度専門職としての作業療法士を養成します。
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	本専攻は全国で唯一の修士(作業療法学)を通信制で取得できる大学院である。現在、臨床・教育領域に勤務する作業療法士において、大学院入学(修士号取得)に対する需要は増える傾向にある。しかし、通常の通学制大学院では勤務体制等の問題で通学できないという現職者も多く、進学に対するニーズに応え得る体制を保持する。また、通信制であるというメリットを最大限生かすことを主軸に以下のことを目標とする。 1) 教員の教育力向上のために通学制大学院と共同で、大学院教員に対するFD研修会を年に1回実施する。 2) 実際の仕事と大学院の両立を最大限支援するために、入学後より研究主指導教員1名、副指導教員2名を配置し、研究活動やレポート、スクーリングに向けての指導を行う。 3) 臨床・教育領域での疑問を研究で明らかにするために、大学による統計ソフトの購入支援やオンラインジャーナル、有料検索サイトの利用環境整備を行う。 4) 電子メールに加え、グループウェアや無料電話を活用したきめ細かい研究指導 5) より密で高度な研究指導のための質の高い研究指導體制の確立。 6) 通信制であるために、どの地域からでも就業しながら入学が可能であることから、全国から大学院生を募集するために、作業療法関連の学会誌、商業誌への広告を行う。 7) 教育プログラムの強化をはかる。
	(R元)	1) 主指導教員、副指導教員間の頻度の高い連絡によって、仕事との両立の問題による退学をゼロに保つ。 2) 大学院修了後も継続的に支援し、修士論文を国内外の学術誌へ投稿する者を増やす。 3) 作業療法関連の学会誌、商業誌への広告を年に2回以上行う。 4) 指定規則改正にむけてのカリキュラムのを検討する。
	施策 (R2)	◆ 施策 1-4)の継続・推進 ◆ 新規施策 5) 質の高い研究指導體制の確立(目標5) 研究指導體制及び入学定員充足状況の改善を図るため、定員等も含め関係部署等と検討・協議を行う。
	(R3)	◆ 施策 1-5)の継続・推進 ◆ 新規施策 6) 定員の100%充足
	(R4)	◆ 施策 1-6)の継続・推進 ◆ 新規施策 7) 4年間の中期目標達成度を総括し、次期目標計画書を作成

研究力	中期目標	<p>作業療法学専攻においては、現在、研究指導教員11名、研究補助教員2名の状況である。将来的には全教員が大学院修士課程における研究指導の格付けが得られるよう、教員自身の研究力の研鑽、外部資金獲得による研究環境の向上に取り組むことが、大学院生への指導の質の向上につながる。そのことを念頭に以下のことを目標とする。</p> <p>1) 多くの教員が科研費への応募を行い、採択率の向上を目指す。 2) 教員全員が積極的に学術誌への論文投稿を行い、研究力の向上を目指す。</p>
	(R元)	<p>1) 科研費への応募数を増やす。 2) 国内外の学術誌への積極的な投稿を行う。</p>
	(R2)	◆ 施策 1-2)の継続・推進
	(R3)	◆ 施策 1-2)の継続・推進
	(R4)	<p>◆ 施策 1-2)の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 4年間の中期目標達成度を総括し、次期目標計画書を作成</p>

(通信制) 知的財産学研究科 修士課程

元年より知財学研究科が募集停止

ビジョン (キャッチフレーズ)		日本初！ 通信制による知的財産学の大学院 知的創造サイクルに精通した知的財産専門人材、紛争処理や国際取引を把握できる能力を有する人材を養成します。		
教育力 (学修成果の可視化・学生支援を含む。) 募集力 (ブランド力)	中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学生支援 Web上の掲示板システムにより、各教員に「随時質問」可能、それ以上に、通信制ではあるが、「スクーリング」による指導が多く、又場合により院生が各教員の「事務所」に出向いて指導を受けるきめ細かな指導がなされている。その成果の一つとして、平27年度修士生の修士論文要約(7000字)が特許ニュース(経済産業調査会)に掲載された。 また、毎年、特別講演会を3回(特別講座1回、4月に初心者知財入門講座2回「民法」・「知財入門・条約入門」)を開催している。 ◆ 国家試験対策等 平成24年度から4年連続弁理士試験に最終合格した。合格した弁理士とともに、『知財四法基礎』(「マスターリンク」)を出版(平成27年12月刊行)。国家試験「知的財産管理技能検定試験」においても1級、2級の合格者を出している。 ◆ 入学定員 毎年4名～5名で充足率は達成されていない(現在全13名)。募集力についてはPR不足が原因と思われ対策を検討中(今後、商工会議所訪問等を検討)。 ◆ 今後の目標 <ul style="list-style-type: none"> ① 職業実践力育成プログラム(BP)を文科省に申請(結果に関係なく実施)。 ② 現在の知的財産学研究科を知財基礎コース(弁理士免除)と専門実務コースに分けることを検討中。 ③ 岡山大学大学院法務研究科との協力では特別講座を年2回実施し、法務研究科生にも知財関係を受講させるよう提携を検討中。他の大学院についても検討中。 ④ 岡山を中心に産業界と知財で連携を計画中(今後、商工会議所まわり等検討)。 		
		(R元)	1) 目標の①職業実践力育成プログラムを実施する。元年より知財学研究科募集停止	
	施策	(R2)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 施策1)の継続・推進 ◆ 新規施策 2) 目標の②研究科を知財基礎コースと専門実務コースに分けることを実施、③他の大学院等との提携も実施する。 	
		(R3)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 施策1-2)の継続・推進 ◆ 新規施策 3) 目標の③、④とも併行して実施する。 	
		(R4)		

研究力	中期目標	<p>研究科では学外専任(知財弁護士、弁理士等の実務家教員)が多くいるが、各自が様々な論文・学会発表等を行っている。</p> <p>平成26年度「地の拠点整備事業」取組みで、「世界の商標・地理的表示『Budweiser』事件をめぐる各国の動向と我国の農業振興・地域活性化」を申請した(結果は不採択)。</p> <p>各教員は知財に関しては、アメリカ、中国、韓国、EU等の各外国の法制度、判例についても熟知しており、さらに研究を進める。</p>	
	施策	(R元)	<p>1) 特別講座開催 元年より知財学研究科が募集停止</p> <p>「TPPと知的財産権」または「商標と地理的表示をめぐる各国の動向」講座・シンポジウム計画</p>
		(R2)	<p>2) シンポジウム開催</p> <p>吉備国際大学・華東政法大学共催の日中知財シンポ計画(日本経営実務法学会含む)特別講座開催「テーマ・未定」</p>
		(R3)	<p>3) シンポジウム開催</p> <p>岡山経済界と連携してシンポを計画「テーマ・未定」、特別講座開催「テーマ・未定」</p>
		(R4)	